

タイトル	日本自動車産業と総力戦体制の形成（九）
著者	大場，四千男；OHBA, Yoshio
引用	開発論集(109)：105-154
発行日	2022-03-18

日本自動車産業と総力戦体制の形成（九）

大 場 四千男*

目 次

- 一章 ヒットラーとドイツの大衆車構想
- 二章 日本の「大衆車構想」
- 三章 満州事変と陸軍の自動車政策
- 四章 昭和期満州事変の自動車部隊編成と国産自動車の脆弱性（第101号）
- 五章 商工省・鉄道省の自動車政策（第102号）
- 六章 総力戦体制の再編成と満州支配（第103号）
- 七章 第一次世界大戦の総力戦と日本陸軍の総力戦構想（第104号）
- 八章 軍用自動車補助法と軍用自動車の満州事変への動員（第105号）
- 九章 軍用自動車補助法の改正と輸送革命（第106号）
- 十章 国防国家と総力戦体制（第107号）
- 十一章 長期的分析論とその課題
 - 1 自動車製造事業法は何故制定されたのか——問題提起
 - 2 長期分析論における人口論
 - (1) 江戸時代の人口問題と家族形態
 - (2) 資料「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」前半（第108号）
 - (3) 資料「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」後半
 - (4) 江戸時代初期における農業経営形態と家族形態

(3) 資料「彦根大洞弁財天建立鳥目寄帳」後半

一、鳥目九銭壺人前壺銭ツゝ

傳 左 衛 門
 妻
 市 之 介
 熊 之 介
 し の
 き く
 あ ま
 弥 兵 衛
 市 藏

一、鳥目貳銭壺人前壺銭ツゝ

太 郎
 せ ん

一、鳥目五銭壺人前壺銭ツゝ

忠 兵 衛

妻
 ま つ
 三 郎 介
 あ ま

勘 左 衛 門
 妻
 庄 三 郎

一郎左衛門
 妻
 太 郎
 は つ

市 右 衛 門

*（おおば よしお）北海学園大学開発研究所特別研究員

	忼子 同娘	妻 仁兵衛 勘五郎 はつ
一、鳥目六銭老人前沓銭ツゝ		六左衛門 妻 母与介 弥善兵衛
一、鳥目六銭老人前沓銭ツゝ	六左衛門忼子 同弟	五兵衛 妻三太郎 三つめら
一、鳥目七銭老人前沓銭ツゝ	忼子 同娘	喜兵衛 小十郎後家 太ちやう あまらも
一、鳥目四銭老人前沓銭ツゝ	右之後家忼子 同断娘 同	六兵衛 妻十右衛門 妻
一、鳥目六銭老人前沓銭ツゝ	聾	十兵衛 妻母太郎 三九之介
一、鳥目七銭老人前沓銭ツゝ	十兵衛忼子 同	五郎兵衛 妻吉兵衛 六五郎 あまつ
一、鳥目五銭老人前沓銭ツゝ	忼子 同娘	喜左衛門

	娘 同	妻 はつか かめ
一、鳥目六銭老人前沓銭ツゝ		左右衛門 妻権次郎 あまてく 勘三郎
一、鳥目五銭老人前沓銭ツゝ	忼子 同娘	次郎兵衛 妻うし ごふり
一、鳥目五銭老人前沓銭ツゝ	忼子 同娘	太郎兵衛 妻平介 権十郎 たつ
一、鳥目六銭老人前沓銭ツゝ		所右衛門 妻与左衛門 妻七兵衛 妻
一、鳥目五銭老人前沓銭ツゝ	所右衛門兄 所右衛門弟	作左衛門 妻母九郎 甚ま
一、鳥目三銭老人前沓銭ツゝ	作左衛門忼子 同娘	久三郎 妻しゆん
一、鳥目四銭老人前沓銭ツゝ	忼子 同	平右衛門 妻茂左衛門 八介
一、鳥目五銭老人前沓銭ツゝ		傳兵衛

妻 安左衛門
 忤子 安 ま つ
 同 同 で ん
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、
 兵 蔵
 母 衛
 弟 金 兵 衛
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 十左衛門
 妻 長 兵 衛
 忤子 三 郎 介
 同 娘 あ ま
 一、鳥目八銭老人前老銭ツ、
 又左衛門
 妻 八 介
 忤子 権 兵 衛
 同 同 五 郎 介
 同 娘 三 介
 同 同 と め
 同 同 か ん
 一、鳥目九銭老人前老銭ツ、
 ✓ 八 兵 衛
 妻 甚五左衛門
 八兵衛忤子 妻 八左衛門
 八兵衛忤子 同 娘 た つ
 同 めい ま つ
 甚五左衛門忤子 同 同 ご ん
 下 人 庄 八
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、
 甚五兵衛
 妻 母
 一、鳥目拾貳銭老人前老銭ツ、
 ✓ 権 右衛門
 妻 七 郎 兵 衛
 忤子 妻 十 介
 七郎兵衛忤子 同 娘 う し
 同 同 り ん
 同 同 ミ い
 下 人 長 作
 同 同 次 郎 介

下 女 は つ
 同 同 こ ち よ
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 勘 兵 衛
 妻 け 兵 衛
 娘 ゆ き
 娘 は は
 同 な つ
 一、鳥目貳銭老人前老銭ツ、
 八右衛門
 母
 一、鳥目四銭老人前老銭ツ、
 吉左衛門
 妻 太 郎
 忤子 た つ
 娘 一、鳥目九銭老人前老銭ツ、
 十右衛門
 妻 母
 十右衛門忤子 弥左衛門
 同 同 猪 之 介
 同 同 娘 と ら
 同 同 お く
 同 同 ち よ
 同 弟 六 兵 衛
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 金右衛門
 妻 猪 之 介
 忤子 次 郎 作
 同 同 ず く
 一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 庄 兵 衛
 妻 金 左衛門
 忤子 妻 平 十 郎
 庄兵衛忤子 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、
 ✓ 甚 兵 衛
 妻 う し
 忤子 は な
 娘 同 同 し も
 下 人 猪
 一、鳥目六銭老人前老銭ツ、
 作 兵 衛
 妻

忤子てん
 同弥太
 同きち
 娘つね

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、
 真言宗善養寺住持 ✓ 知海
 弟子知傳
 下人角兵衛
 同権兵衛
 真言宗淨音寺住持 文祝

一、鳥目老銭
 人数 合 三百三拾九人
 鳥目 合 三百五拾老銭
 但目銭共

8 上野毛村

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、
 名主 ✓ 田中源兵衛
 源兵衛忤子 源八
 同娘 娘ま はん
 同娘 娘かし ゆ ん
 同娘 娘し け
 源兵衛弟 権之介
 同弟 与兵衛
 下人 五郎兵衛
 同 仁兵衛
 同 平助
 下女 喜助
 同 かさ つ
 同 あ ま

一、鳥目拾五銭老人前老銭ツ、
 年寄 ✓ 木村三右衛門
 三右衛門娘 ね
 同忤子 八郎
 同忤子 七郎
 同忤子 七郎
 同妹 孫七
 下人 才兵衛
 同 門三郎
 同 仁左衛門
 同 三介
 同 長八

下女 まき
 同 ま つ

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 年寄 田中孫兵衛
 弟母右衛門
 下女 庄七郎
 同 ちやう

一、鳥目拾式銭老人前老銭ツ、
 ✓ 新八郎
 弟母三之介
 妹 三か つ
 弟 拓之助
 同 へ ん
 下人 権三
 同 八郎兵衛
 同 一郎兵衛
 同 甚介
 下女 な つ
 同 し ま

一、鳥目拾老銭老人前老銭ツ、
 ✓ 金左衛門
 忤子 妻 郎
 娘 市 ん
 同 娘 れ な
 同 忤子 は 介
 同 娘 八 と め
 下人 さ 市 兵 衛
 下 権 七
 女 あ ま

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、
 権兵衛
 忤子 妻 郎
 権兵衛弟 門 四 郎

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、
 権左衛門
 妻 左衛門
 父 権右衛門
 権左衛門忤子 弥兵衛
 権左衛門娘 妻
 弥兵衛娘 ふ く
 は つ

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 孫右衛門

妻
 忤子 万 吉
 娘 た つ
 忤子 小 七
 一、鳥目九銭老人前屯銭ツゝ
 庄兵衛
 妻
 忤子 金左衛門
 妻
 庄兵衛忤子 介左衛門
 妻
 (ママ) 金右衛門娘 で う
 下人 三 次 郎
 下女 よ め
 一、鳥目七銭老人前屯銭ツゝ
 金十郎
 妻
 金十郎忤子 母 猪之介
 娘 娘 さ る
 忤子 牛
 娘 せ ち
 一、鳥目六銭老人前屯銭ツゝ
 文左衛門
 妻
 忤子 次郎兵衛
 同 同 三左衛門
 同 同 権
 同 同 吉
 一、鳥目貳銭老人前屯銭ツゝ
 惣兵衛
 母
 一、鳥目四銭老人前屯銭ツゝ
 甚兵衛
 妻
 忤子 女 くら
 娘 か ん
 一、鳥目四銭老人前屯銭ツゝ
 五郎左衛門
 妻
 忤子 権 三
 娘 な ん
 一、鳥目七銭老人前屯銭ツゝ
 十兵衛
 妻
 十兵衛忤子 母 六
 同忤子 同 七 介蔵

同忤子 勘 七
 同忤子 十 三
 一、鳥目貳銭老人前屯銭ツゝ
 権太郎
 母
 一、鳥目三銭老人前屯銭ツゝ
 半兵衛
 妻
 半兵衛弟 甚右衛門
 一、鳥目五銭老人前屯銭ツゝ
 八兵衛
 妻
 娘 子 子 十
 娘 娘 お ま
 一、鳥目貳銭老人前屯銭ツゝ
 久左衛門
 妻
 一、鳥目四銭老人前屯銭ツゝ
 真言宗覚願寺住持
 隱居 存賢 秀
 存秀弟子 音 秀
 下人 傳 吉
 人数 合 百三拾老人
 鳥目 合 百三拾五銭
 但目銭共

9 瀬田村

一、鳥目四拾銭老人前屯銭ツゝ
 名主 長崎 四郎右衛門
 妻
 忤子 又 四郎
 同 同 七之介
 同 同 又 三郎
 下人 作 右衛門
 同 同 門 左衛門
 同 同 藤 介
 同 同 権 六
 同 同 源 太
 同 同 茂 介
 同 同 七 兵衛
 同 同 長 兵衛
 同 同 甚 左衛門
 同 同 権 左衛門
 同 同 久 三郎
 同 同 弥 兵衛
 同 同 庄 兵衛
 同 同 加 左衛門

同 平 四 郎
同 權 太 郎
同 長 右 衛 門
同 佐 次 兵 衛
同 牛 つる じ
下 女 同 する すす
同 同 まとく ら
同 同 くふき り
同 同 きつ ん
同 同 むめ な
同 同 ミか ン
同 同 ふう さ く
同 同 ミ や
同 同 ま つ
同 て

一、鳥目九銭老人前壱銭ツ、
年 寄 ✓

白 居 十郎右衛門
妻 孫 市
同 子 同 せ
同 同 い 郎
弟 半 三 兵 衛
下 九 兵 衛
同 半 兵 つ
同 女 た ま
同 あ

一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、
年 寄 ✓

柳 田 源 右 衛 門
次郎右衛門
妻 市 蔵
下 人 同 介
同 女 三 さ
同 け き
同 あ

一、鳥目八銭老人前壱銭ツ、
年 寄

中 村 金右衛門
妻 一 郎 兵 衛
父 伯 父 仁 兵 衛
弟 同 半 兵 衛
妹 同 文 郎
同 と は め
同 な

一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、
年 寄 ✓

杉 田 傳 兵 衛
子 妻 四郎左衛門
傳兵衛子 平 三 郎
同 娘 し ゆ ん
同 ま て
四郎左衛門子 勘 太 郎
下 人 猪 之 介
下 女 さ か

一、鳥目拾三銭老人前壱銭ツ、
年 寄 ✓

角 居 六 兵 衛
妻 母 は なく
同 兵衛娘 同 子 十 介
同 子 同 権 吉
下 人 同 八 蔵
同 同 久 三 郎
同 同 八 左 衛 門
同 同 甚 く に
下 女 同 さ や

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
年 寄

長 崎 七 郎 兵 衛
母 庄 兵 衛
七郎兵衛子 妻 甚 五
七郎兵衛子 同 七 之 介

一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、
年 寄

小 泉 茂 右 衛 門
子 妻 弥 五 兵 衛
娘 ゆ き ら
同 と さ か
同 弟 弥 次 兵 衛

一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、
年 寄

長 崎 五郎右衛門
妻 母 し ゆ ん
五郎右衛門娘 子 傳 次 郎
同 娘 同 市 三 郎
弟 吉

一、鳥目八錢老人前壱銭ツ、

✓ 彦 右 衛 門
妻
忤 子 喜 太 郎
同 次 郎 七
同 三 十 郎
同 与 介
兄 忠 三 郎
下 人 清 右 衛 門

一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、

孫 右 衛 門
妻
孫右衛門忤子 母 千 介
同 ま つ
同 牛 之 介
娘 た ね
弟 七 左 衛 門
同 久 左 衛 門
同 小 兵 衛

一、鳥目拾六銭老人前壱銭ツ、

✓ 長 兵 衛
妻
忤 子 角 左 衛 門
妻
長兵衛忤子 た つ
角左衛門忤子 長 太
同 娘 に く
同 娘 つ
下 人 ミ 五 郎
同 長 五 郎
同 て き
同 惣 左 衛 門
同 三 右 衛 門
同 三 介
下 女 勘 七
同 よ し
か や

一、鳥目九銭老人前壱銭ツ、

✓ 金 十 郎
妻
金十郎忤子 母 郎
同 太 次 郎
妹 久 次 郎
弟 い せ め
下 人 市 十 郎
同 権 七

一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、

権 四 郎
妻
忤 子 九 十 郎
娘 け さ

一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、

七郎右衛門
妻
七郎右衛門忤子 母 庄 介
弟 三 介

一、鳥目拾五銭老人前壱銭ツ、

権 兵 衛
妻
忤 子 八郎左衛門
八郎左衛門忤子 妻 二 郎 市
同 と じ ゃ う
娘 忤 子 十 次 郎
下 人 平 兵 衛
下 人 久 介
同 金 右 衛 門
同 吉 右 衛 門
下 女 ま つ
同 あ ま き
同 ゆ

一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、

✓ 甚 左 衛 門
妻
忤 子 権 四 郎
下 人 長 五 郎
下 女 に わ

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

庄 左 衛 門
妻
庄左衛門忤子 母 六 之 介
同 弟 左 五 右 衛 門
妹 と ら

一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、

惣 右 衛 門
妻
父 利 右 衛 門
母 ね い
惣右衛門娘 下 人 勘 十 郎

一、鳥目九銭老人前壱銭ツ、

作 兵 衛

妻 文左衛門
 忤子 べん
 娘 同 ふう
 同 同 りさ
 忤子 同 ひう
 同 と し
 ら

一、鳥目九錢老人前忤錢ツ、

妻 徳左衛門
 忤子 長左衛門
 徳左衛門忤子 妻 長二郎
 同 同 長四郎
 娘 同 かつ
 同 同 ちう
 同 た つ

一、鳥目七錢老人前忤錢ツ、

✓ 吉兵衛
 忤子 妻 文右衛門
 文右衛門忤子 妻 文八郎
 甥 権太郎
 下人 七兵衛

一、鳥目五錢老人前忤錢ツ、

九兵衛
 妻 五兵衛
 聲 妻 五兵衛
 五兵衛娘 妻 きく

一、鳥目四錢老人前忤錢ツ、

半左衛門
 娘 妻 ちやう
 忤子 長松

一、鳥目四錢老人前忤錢ツ、

久蔵
 妻 はな
 娘 忤子 久太郎

一、鳥目貳錢老人前忤錢ツ、

才兵衛
 妻

一、鳥目五錢老人前忤錢ツ、

安左衛門
 妻

忤子 甚兵三郎
 同 同 三吉

一、鳥目六錢老人前忤錢ツ、

傳十郎
 妻 母い
 伝十郎忤子 弟 同 金喜三郎

一、鳥目五錢老人前忤錢ツ、

平兵衛
 妻 久太郎
 忤子 同 娘 庄こちよ

一、鳥目八錢老人前忤錢ツ、

✓ 藤兵衛
 忤子 妻 猪之介
 同 同 三権しゆん
 同 娘 下人 作二郎兵衛

一、鳥目拾四錢老人前忤錢ツ、

✓ 傳左衛門
 聲 妻 半之介
 傳左衛門娘 同 同 妻 まかつ
 半之介娘 同 同 下人 ぎふり
 同 同 仁左衛門
 同 同 徳左衛門
 同 同 十字介
 同 同 下女 ちよば
 同 か や

一、鳥目四錢老人前忤錢ツ、

弥次右衛門
 妻 せき
 娘 忤子 牛之介

一、鳥目六錢老人前忤錢ツ、

五郎左衛門
 妻

母
 五郎左衛門娘
 忤子
 妹
 娘
 同
 父
 五郎兵衛弟
 同妹
 同従弟
 忤子
 六左衛門忤子
 勘右衛門忤子
 同
 作右衛門娘
 弟
 同
 同
 善次兵衛
 妻
 十右衛門
 妻
 十右衛門娘
 下人
 下女
 茂兵衛
 妻
 母
 三
 惣
 五郎兵衛

一、鳥目四錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目八錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目壹錢
 一、鳥目壹錢
 一、鳥目六錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目六錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目七錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目八錢老人前壱錢ツゝ、

妻
 傳
 娘
 八郎兵衛
 才兵衛
 妻
 三次郎
 与介
 権六
 甚五左衛門
 佐五兵衛
 妻
 重三郎
 妻
 娘
 同
 忤子
 午
 権右衛門
 妻
 忤子
 二郎左衛門
 妻
 権右衛門忤子
 多兵衛
 妻
 権右衛門娘
 二郎左衛門娘
 同
 下人
 同
 同
 同
 同
 同
 下女
 同
 源兵衛
 妻
 娘
 太左衛門
 妻
 忤子
 長二郎
 次兵衛
 妻

一、鳥目七錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目貳錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目五錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目六錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目拾六錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目三錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目三錢老人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目六錢老人前壱錢ツゝ、

	忤子	七左衛門
		妻
次郎兵衛忤子		長介
同忤子		由兵衛
一、鳥目三錢老人前壺銭ヅ、		
		長右衛門
		妻
忤子		猪之介
一、鳥目六錢老人前壺銭ヅ、		
		儀左衛門
		妻
忤子		ひさ松
娘		ふくん
同		まんな
下女		なつ
一、鳥目八錢老人前壺銭ヅ、		
	✓	利左衛門
		妻
同娘		りん
同		たつし
同		よし
忤子		午傳四郎
下人		傳三介
同		
一、鳥目四錢老人前壺銭ヅ、		
		由右衛門
		妻
父		忠左衛門
由右衛門忤子		弥三郎
一、鳥目拾四錢老人前壺銭ヅ、		
		次郎兵衛
		妻
忤子		彦兵衛
同		仁兵衛
同		小兵衛
同		千介
娘		とす
同		やし
同		も
弟		新兵衛
		新妻
新兵衛忤子		三郎
同		勘五郎
一、鳥目五錢老人前壺銭ヅ、		
		市郎左衛門
		妻
忤子		新兵衛

同	六	
同	と	ら
一、鳥目七錢老人前壺銭ヅ、		
	✓	七郎左衛門
		妻
賀		弥左衛門
		妻
弥左衛門娘		いぬ
下人		才兵衛
下女		まつ
一、鳥目三錢老人前壺銭ヅ、		
		三郎右衛門
		妻
娘		きく
一、鳥目四錢老人前壺銭ヅ、		
		六郎兵衛
		妻
娘		ふり
忤子		十介
一、鳥目三錢老人前壺銭ヅ、		
		佐傳
		母
妹		まり
一、鳥目九錢老人前壺銭ヅ、		
	✓	猪右衛門
		妻
忤子		五左衛門
		妻
猪右衛門娘		ふう
同		とめ
弟		平右衛門
		妻
下人		十三郎
一、鳥目五錢老人前壺銭ヅ、		
		市郎右衛門
		妻
娘		やい
同		ねま
同		あ
一、鳥目四錢老人前壺銭ヅ、		
		五平次
		妻
忤子		ずく
娘		あま
一、鳥目六錢老人前壺銭ヅ、		
		三郎兵衛
		妻
忤子		甚五兵衛

	妻	三 次 郎
一，鳥目三銭老人前壱銭ツゝ	三郎兵衛 同	山 三 郎
	✓	利 兵 衛
一，鳥目五銭老人前壱銭ツゝ	下 人	妻 権 次 郎
		仁 兵 衛
一，鳥目四銭老人前壱銭ツゝ	忼 子 弟 同	妻 権 門 三 郎 六 蔵
	忼 子 同 同	三 左 衛 門 二 郎 吉
一，鳥目六銭老人前壱銭ツゝ	弟	傳 う し
		清 兵 衛
	久兵衛 同 娘	久 兵 衛
一，鳥目貳銭老人前壱銭ツゝ	同 娘	妻 ち や う 兵 さ 介 き
		文 左 衛 門
一，鳥目四銭老人前壱銭ツゝ	✓	源 左 衛 門
	下 人	妻 二 郎 作
一，鳥目五銭老人前壱銭ツゝ	下 女	は な
		清 兵 衛
一，鳥目六銭老人前壱銭ツゝ	清兵衛 同忼子	妻 母 へ ん 三 介
		惣 左 衛 門
	忼 子	妻 勘 二 郎
一，鳥目貳銭老人前壱銭ツゝ	惣左衛門 勘二郎娘	妻 十 蔵 る す
		猪 之 介

一，鳥目五銭老人前壱銭ツゝ	母	庄 次 郎
	忼 子	妻 す け
一，鳥目六銭老人前壱銭ツゝ	娘 弟	た つ 平 十 郎
	✓	十 兵 衛
一，鳥目五銭老人前壱銭ツゝ	忼 子	妻 二 郎 兵 衛
	十兵衛 下 人	妻 熊 十 郎
一，鳥目五銭老人前壱銭ツゝ		八郎右衛門
	忼 子	妻 と ら
一，鳥目壱銭	娘 同	な つ つ
一，鳥目五銭老人前壱銭ツゝ		十 兵 衛
		三 太 郎
	伯 父	妻 傳 三 郎
一，鳥目四銭老人前壱銭ツゝ	妹 弟	べ ん 吉
		孫 兵 衛
	娘	妻 よ し
一，鳥目五銭老人前壱銭ツゝ	孫兵衛 忼子字右衛門	後 家
	✓	金 左 衛 門
	忼 子	妻 善 太 郎
一，鳥目三銭老人前壱銭ツゝ	娘 下 人	み い 勘 三 郎
		与 三 郎
一，鳥目五銭老人前壱銭ツゝ	娘	妻 た つ
	✓	弥 左 衛 門
	忼 子	妻 源 太 郎
	同 下 人	左 太 郎
		傳 右 衛 門

一、鳥目五錢老人前壱銭ツ、

✓ 庄右衛門
妻
娘 ま ち
同 さ い
下 人 作 十 郎

一、鳥目三錢老人前壱銭ツ、

(ママ)
所左衛門梓子弥右衛門
後家娘
所 右 衛 門
後 家
き く

一、鳥目四錢老人前壱銭ツ、

弥五左衛門
娘 へ ん
梓 子 三 次
娘 よ し

一、鳥目九錢老人前壱銭ツ、

✓ 勘 兵 衛
妻
梓 子 九 右 衛 門
下 人 妻 次 右 衛 門
同 女 権
下 女 つ ま ん
同 同 た き く

一、鳥目六錢老人前壱銭ツ、

✓ 奎 左 衛 門
才 十 郎
妻
梓 子 三 十 郎
才十郎梓子 弟 介
下 人 喜 兵 衛

一、鳥目貳錢老人前壱銭ツ、

娘 市 兵 衛
し な

一、鳥目六錢老人前壱銭ツ、

久 右 衛 門
妻
娘 ま つ
梓 子 庄 三 郎
娘 よ し
梓 子 市 十 郎

一、鳥目六錢老人前壱銭ツ、

長 左 衛 門
妻
娘 は な
同 市
同 た つ

一、鳥目四錢老人前壱銭ツ、

梓 子 文 次 郎
助 兵 衛
娘 妻 は つ
同 さ ぶ

一、鳥目九錢老人前壱銭ツ、

✓ 善 左 衛 門
妻
娘 す へ
弟 く め
下 人 傳 藏
同 同 十 三 郎
同 女 久 五 郎
同 同 け さ
は な

一、鳥目拾壱銭老人前壱銭ツ、

✓ 三郎左衛門
妻
三郎左衛門娘 母 み い
同梓子 同梓子 三 介
弟 犬 ま つ
下 人 久 三 郎
同 同 金 兵 衛
同 同 山 三 郎
下 女 た ね
同 同 け さ

一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、

✓ 市 右 衛 門
妻
娘 は つ き
同 ゆ 五 郎
同 子 三 ち や う
同 甥 久 次 郎
下 人 五 兵 衛
下 女 三 ま
下 人 三 吉

一、鳥目五錢老人前壱銭ツ、

浄土宗行善寺住持
隠 居 丹 察
同 宿 天 栄
同 同 仙 鶴
下 人 生 雲
長 吉

一、鳥目三錢老人前壱銭ツ、

浄土宗法徳寺住持
同 宿 寿 山
一 入

下 人 忠 兵 衛
 一、鳥目三銭老人前老銭ツ、
 真言宗慈眼寺住持 音 宗
 弟 子 圓 祝
 下 人 五 右 衛 門
 人数 合 六百五人
 鳥目 合 六百貳拾九銭
 但目銭共

10 岡 本 村

一、鳥目拾四銭老人前老銭ツ、
 名 主 ✓ 荻 野 七郎右衛門
 妻
 娘 ち や う
 弟 三郎右衛門
 妻
 三郎右衛門忒子 太 郎
 同 娘 い の
 弟 六 郎 兵 衛
 妻
 六郎兵衛娘 ゆ き
 同 さ い
 弟 平 右 衛 門
 妹 か め
 下 人 小 兵 衛

一、鳥目拾老銭老人前老銭ツ、
 年 寄 ✓ 海老沢三郎兵衛
 妻
 娘 さ か
 忒 子 兵 左 衛 門
 妻
 兵左衛門忒子 辰 之 介
 同 甚 太 郎
 三郎兵衛忒子 新 兵 衛
 妻
 三郎兵衛忒子 孫 兵 衛
 下 人 三 吉

一、鳥目八銭老人前老銭ツ、
 年 寄 ✓ 飯 嶋 傳 左 衛 門
 妻
 忒 子 德 右 衛 門
 妻
 徳右衛門忒子 乙 松
 同 勘 之 介
 同 娘 か な
 下 人 仁 右 衛 門

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、
 年 寄 山 崎 太 左 衛 門

妻
 忒 子 孫 右 衛 門
 妻
 孫右衛門忒子 七 介
 下 人 っ か

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 勘 左 衛 門
 母
 弟 傳
 同 妹 と ら
 妹 か つ

一、鳥目八銭老人前老銭ツ、
 ✓ 太 兵 衛
 妻
 忒 子 太郎右衛門
 妻
 太兵衛忒子 甚五右衛門
 妻
 下 人 勘 三 郎
 下 女 は る

一、鳥目拾老銭老人前老銭ツ、
 ✓ 吉 左 衛 門
 忒 子 吉 兵 衛
 妻
 吉左衛門忒子 弥 右 衛 門
 妻
 吉兵衛娘 ぎ ん
 同 つ よ
 弥右衛門娘 か ん
 同 き く
 同忒子 虎 之 介
 下 人 く ら

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、
 次 右 衛 門
 妻
 忒 子 市 右 衛 門
 妻
 次右衛門忒子 弥 次

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、
 五 郎 兵 衛
 妻
 忒 子 八 右 衛 門
 同 百 介

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、
 長 左 衛 門
 妻
 忒 子 文 右 衛 門
 同 庄 五 郎

娘 同 忤 子 同 娘
こ あ ち よ
権 權 と ま ら て
ま ら て

一、鳥目六錢老人前忤錢ツ、

忤 子
喜 兵 衛
長 右 衛 門
妻
長右衛門忤子
太 郎
同 卯 之 介
同 猪 之 介

一、鳥目四錢老人前忤錢ツ、

六 左 衛 門
妻
忤 子
三 五 郎
伯 父 庄 右 衛 門

一、鳥目五錢老人前忤錢ツ、

吉 兵 衛
妻
父 宗 休
弟 母 牛

一、鳥目五錢老人前忤錢ツ、

十 三 郎
妻
忤 子
ま つ
同 与 次
弟 才 兵 衛

一、鳥目八錢老人前忤錢ツ、

市 兵 衛
母
市兵衛弟 惣 兵 衛
妻
市兵衛妹 こ ち よ
同 甥 く ま
市兵衛兄 三右衛門後家
同忤子 権

一、鳥目五錢老人前忤錢ツ、

七 右 衛 門
妻
忤 子
十 兵 衛
娘 ふ き
同 は る

一、鳥目八錢老人前忤錢ツ、

与 兵 衛
妻
忤 子 源 兵 衛

妻
与兵衛忤子 七 左 衛 門
同 同 娘 三 之 介
同 同 かせ や き

一、鳥目七錢老人前忤錢ツ、

一 郎 兵 衛
妻
母
弟 平 三 郎
弟 妻 右 衛 門
妹 源 た ま

一、鳥目四錢老人前忤錢ツ、

猪 右 衛 門
妻
忤 子
い さ
下 人 三 介

一、鳥目五錢老人前忤錢ツ、

茂 右 衛 門
妻
忤 子
三 介
娘 た ん 女
同 さ か

一、鳥目三錢老人前忤錢ツ、

八 介
妹 や 庄 す

一、鳥目拾四錢老人前忤錢ツ、

✓ 権 三 郎
妻
母
權三郎忤子 左 傳
同 娘 は な
權三郎兄 門 左 衛 門
妻 門 右 衛 門
門左衛門忤子 妻 門 右 衛 門
門左衛門忤子 傳 妻
同 娘 た つ
下 人 利 兵 衛
同 同 長 蔵
下 女 き く

一、鳥目拾忤錢老人前忤錢ツ、

猪 兵 衛
半 兵 衛
忤 子 三 左 衛 門
同 同 清 右 衛 門
猪兵衛御

	猪兵衛忒子	妻	八 十 郎
	猪兵衛弟	七 兵 衛	
	七兵衛娘	妻	七
	同	き	い
	同	さ	い
一，鳥目三銭老人前忒銭ツゝ		傳 右 衛 門	
	忒 子	妻	
		三	蔵
一，鳥目三銭老人前忒銭ツゝ		佐五右衛門	
	弟	母	
		又 右 衛 門	
一，鳥目六銭老人前忒銭ツゝ		九 右 衛 門	
	忒 子	妻	
	娘	か	ま
	同	お	く
	同	ま	き
		さ	い
一，鳥目六銭老人前忒銭ツゝ		甚 右 衛 門	
	忒 子	妻	
	同	佐 五 兵 衛	
	同	三 太 郎	
	娘	六	さ
		け	
一，鳥目拾銭老人前忒銭ツゝ		佐 左 衛 門	
	忒 子	妻	
		安 兵 衛	
	佐左衛門忒子	妻	
	同	権	
	同 娘	う	し
	同忒子	い	ぬ
		左 兵 衛	
	左兵衛忒子	妻	
		太	郎
一，鳥目貳銭老人前忒銭ツゝ		加 兵 衛	
		母	
一，鳥目八銭老人前忒銭ツゝ		三郎左衛門	
	忒 子	長 兵 衛	
		妻	
	三郎左衛門忒子	権	四 郎

	権四郎娘	妻	は	つ
	同	ま	つ	
	従 弟	平	三	郎
一，鳥目六銭老人前忒銭ツゝ		十 右 衛 門		
	忒 子	妻	忠 右 衛 門	
	娘	お	さ	
	同	せ	き	
		と	め	
一，鳥目拾銭老人前忒銭ツゝ		清 兵 衛		
	忒 子	妻	傳 兵 衛	
	娘	た	つ	
	同	あ	ま	
	忒 子	五	郎	
	同	庄	衛	
	弟	弥次右衛門		
	弥次右衛門忒子	金	兵 衛	
	同 娘	き	く	
一，鳥目五銭老人前忒銭ツゝ		次 郎 兵 衛		
	娘	妻	た ん 女	
	忒 子	九	十 郎	
	甥	門	三 郎	
一，鳥目六銭老人前忒銭ツゝ		平 左 衛 門		
	忒 子	長	十 郎	
	平左衛門忒子	妻	七 左 衛 門	
	平左衛門忒子	妻	猪 兵 衛	
一，鳥目四銭老人前忒銭ツゝ		徳 兵 衛		
	同	妻	二 郎	
	同	庄	か	ま
一，鳥目貳銭老人前忒銭ツゝ		了 識		
	真言宗長岡寺住持	隠 居	清 忍	
	人数	合 貳百三拾七人		
	鳥目	合 貳百四拾五銭		
		但目銭共		

11 鎌 田 村

一、鳥目貳拾貳錢壹人前壹錢ツ、

名主 ✓ 安 藤 平左衛門
妻
悱子 一郎左衛門
妻
平左衛門娘 つ な
一郎左衛門悱子 藤 之 介
同 娘 そ め
下 人 伯 母
同 十 三 郎
同 権 七 郎
同 善 太 郎
同 七 兵 衛
同 長 兵 衛
同 次 郎
同 太 郎
同 関 蔵
同 曾 兵 衛
同 権 兵 衛
下 女 た ん
同 かつ た
同 せ ん

一、鳥目六錢壹人前壹錢ツ、

名主 川 辺 八郎右衛門
妻
母 ち ょん
八郎右衛門娘 こ き
同 六 郎 兵 衛
弟

一、鳥目拾貳錢壹人前壹錢ツ、

年寄 ✓ 川 辺 勘 兵 衛
悱子 妻 三 郎
勘兵衛悱子 権 妻 之 介
同 午 之 介
同 又 之 介
権三郎娘 ま き
下 人 と め
同 弥 五左衛門
同 太 郎
下 女 六 介
き く

一、鳥目七錢壹人前壹錢ツ、

年寄 橋 本 権 右衛門
妻

母 勝 之 介
權右衛門悱子 と め
同 娘 太 郎
弟 同 三 蔵

一、鳥目三錢壹人前壹錢ツ、

四郎左衛門
妻 た ん 女
娘

一、鳥目九錢壹人前壹錢ツ、

清 兵 衛
妻 母 二 郎 兵 衛
清兵衛悱子 妻 は な
清兵衛娘 い め
同 く に
同 ミ の

一、鳥目七錢壹人前壹錢ツ、

✓ 猪 兵 衛
悱子 妻 武 兵 衛
娘 同 は ん な
下 人 太 郎 兵 衛
下 女 つ ま

一、鳥目四錢壹人前壹錢ツ、

三 四 郎
妻 な つ
娘 悱子 十 三 郎

一、鳥目六錢壹人前壹錢ツ、

五 郎 兵 衛
妻 か め
娘 悱子 甚 之 介
弟 牛 之 介
妹 お く

一、鳥目八錢壹人前壹錢ツ、

市 郎 兵 衛
妻 猪 三 郎
悱子 午 之 介
同 万 五 郎
同 弟 弥 次 兵 衛
弟 妻 銀 右衛門

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

市 兵 衛
 妻 長 十 郎
 同 九 十 郎
 同 五 郎
 弟 三 十 郎
 同 平 兵 衛

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

喜 平 次
 妻 ざ か
 娘

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

次郎左衛門
 妻 庄 之 介
 同 三 之 介
 同 傳 介

一、鳥目七銭老人前老銭ツ、

十 兵 衛
 妻 八郎左衛門
 同 権 之 介
 娘 ま ん な り
 同 は ま り

一、鳥目貳銭老人前老銭ツ、

清 三 郎
 妻

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

十 右 衛 門
 妻 と ら つ
 娘 た

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

左 平 次
 妻 母 か
 左平次娘 な

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

德 兵 衛
 妻 た ん 女
 娘 源 五
 同 権 之 介

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

久 右 衛 門
 妻

一、鳥目四銭老人前老銭ツ、

娘 る す
 太 兵 衛
 妻 ま つ
 娘 同 は な

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

次 兵 衛
 妻 け さ
 娘

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

奎 右 衛 門
 妻 奎 左 衛 門
 妻 市 松
 奎左衛門仲子 介
 奎右衛門仲子 万

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

真言宗吉祥院住持 存 了
 下 人 七 兵 衛
 同 小 傳
 人数 合 百四拾人
 鳥目 合 百四拾四銭
 但目銭共

12 大 蔵 村

一、鳥目貳拾銭老人前老銭ツ、

名 主 ✓ 石 居 市 右 衛 門
 妻 市郎右衛門
 父 母
 市右衛門娘 い ぬ
 同仲子 牛 之 介
 同 権 之 介
 下 人 吉 右 衛 門
 同 藤 右 衛 門
 同 武 左 衛 門
 同 又 兵 衛
 同 鉄 兵 衛
 同 重 介
 同 猪 兵 衛
 下 女 く さ と わ
 同 同 と ら め
 同 同 す て
 下 人 権 十 郎
 同 慶 松

一、鳥目六錢老人前老錢ツ、

✓ 安 藤 六 右 衛 門
妻 妻 妻
娘 子 な
忤 下 兵 衛
下 女 徳 あ ま

一、鳥目拾八錢老人前老錢ツ、

年 寄 ✓ 石 居 文 右 衛 門
父 妻 妻
文右衛門忤子 傳 左 衛 門
同 娘 次 右 衛 門
同 同 き く
同 同 た つ
同 忤子 ま さ
同 同 百 介
同 下 人 長 三 郎
同 同 門 左 衛 門
同 同 傳 才 蔵
同 同 長 次 郎
同 同 弥 次 右 衛 門
同 下 女 あ ま
同 同 た ん
同 同 た ね

一、鳥目拾六錢老人前老錢ツ、

年 寄 ✓ 河 野 八 郎 右 衛 門
父 妻 妻
八郎右衛門忤子 茂 兵 衛
同 娘 ふ じ 松
同 同 や す
同 忤子 へ ん
同 同 三 之 介
同 伯父 源 太
同 弟 清 兵 衛
同 弟 平 兵 衛
同 同 妻 妻
下 人 太 郎
同 同 権 介
下 女 あ ま
同 同 ま つ ま

一、鳥目三錢老人前老錢ツ、

年 寄 ✓ 長 嶋 金 右 衛 門
妻 妻 妻
下 人 角 兵 衛

一、鳥目拾老錢老人前老錢ツ、

年 寄 ✓ 石 居 三 五 兵 衛
妻 妻 妻
三五兵衛娘 善 次 兵 衛
同 忤子 た ん 女
同 娘 大 介
同 忤子 小 六
同 同 年 五 郎
同 同 弟 市 三 郎
同 下 人 仁 蔵

一、鳥目八錢老人前老錢ツ、

✓ 佐 次 兵 衛
妻 妻 妻
娘 子 く
忤 千 丞
娘 七 之
忤 七 介
娘 と め
下 市 十 郎

一、鳥目五錢老人前老錢ツ、

忤 子 猪 右 衛 門
茂 右 衛 門
妻 妻
同 忤子 ひ さ
同 同 次 郎

一、鳥目八錢老人前老錢ツ、

市 郎 兵 衛
妻 妻 妻
忤 子 善 左 衛 門
市郎兵衛忤子 妻 七 兵 衛
同 同 三 蔵
同 娘 よ め
善左衛門忤子 市 之 介

一、鳥目九錢老人前老錢ツ、

傳 兵 衛
妻 妻 妻
忤 子 弥 右 衛 門
傳兵衛娘 妻 妻
同 忤子 る 兵 衛
同 同 五 七 之 介
同 同 八 け さ

一、鳥目六錢老人前老錢ツ、

七 郎 兵 衛
妻 妻

娘 倅 同 同	子 同 同	た 甚 権 七	ん 太 郎 左	ち 介 衛 門	よ 郎 門
一、鳥目四銭	老人前	壱銭ツ、	✓	権 妻 り 次	兵 衛 ん 郎
一、鳥目五銭	老人前	壱銭ツ、		仁 妻 如 け く	左 之 介 さ ら
一、鳥目六銭	老人前	壱銭ツ、		惣 妻 源 妻 い か	兵 右 衛 門 ぬ ん
一、鳥目六銭	老人前	壱銭ツ、		倅 同 同 娘	七郎右衛門 妻 八 よ 三 お
一、鳥目九銭	老人前	壱銭ツ、	✓	倅 子 六左衛門娘 同倅子 同弟 理左衛門倅子 下人	六左衛門 妻 理左衛門 妻とめ どうしや 平兵衛 佐太郎 権左衛門
一、鳥目拾銭	老人前	壱銭ツ、	✓	佐太右衛門倅子 下人 同 同 同	佐太右衛門 妻 母九 十半 金十 次郎 ご

下 同 同	女 ひ は ふ	つ つ じ
一、鳥目五錢老人前老錢ツ、	七郎左衛門 妻七あさ	介まつ
倅娘同	子七あさ	
一、鳥目九錢老人前老錢ツ、	✓ 次郎兵衛 妻母ぎ次 まきこ三	衛 ん 郎 り よ よ 太
娘倅娘娘妹下	子 倅 娘 娘 妹 下 人	
一、鳥目拾錢老人前老錢ツ、	✓ 長妻かく三六猪長牛さ	衛 ん に 介 介 衛 郎 つ
倅娘倅同同下同下	子 子 同 同 同 下 女	
一、鳥目拾錢老人前老錢ツ、	弥五左衛門 妻る太次郎やむ弥半三	衛 す 市 門 す め 介 介 介
娘倅同娘同倅甥同	子 倅 同 娘 同 倅 甥 同	
一、鳥目三錢老人前老錢ツ、	弥十郎 妻お	郎 く
一、鳥目七錢老人前老錢ツ、	太右衛門 妻	門 妻

	母	与四郎
太右衛門弟	同	妹
同	下	女
一，鳥目四銭老人前壱銭ツ、		
	権母	四郎
権四郎妹	同	弟
一，鳥目四銭老人前壱銭ツ、		
	惣妻	四郎
娘	あ	まつ
一，鳥目四銭老人前壱銭ツ、		
	徳左衛門	妻
徳左衛門娘	母	ちやう
一，鳥目五銭老人前壱銭		
(ツ、脱カ)	山三郎	妻
忼子	同	娘
一，鳥目四銭老人前壱銭ツ、		
	弥五兵衛	妻
忼子	娘	半四郎
一，鳥目六銭老人前壱銭ツ、		
	金左衛門	妻
忼子	娘	又左衛門
忼子	養子	ちやく
一，鳥目三銭老人前壱銭ツ、		
	勘兵衛	妻
忼子	百	介
一，鳥目四銭老人前壱銭ツ、		
	✓	甚五兵衛
忼子	娘	八之介
下人		しん
一，鳥目八銭老人前壱銭ツ、		

	彦兵衛	妻
父	孫三	か
彦兵衛忼子	同	同
同	同	娘
一，鳥目五銭老人前壱銭ツ、		
	庄左衛門	庄右衛門
忼子	同	娘
一，鳥目五銭老人前壱銭ツ、		
	与惣左衛門	妻
忼子	娘	甥
一，鳥目四銭老人前壱銭ツ、		
	甚兵衛	妻
忼子	娘	太郎左衛門
一，鳥目五銭老人前壱銭ツ、		
	庄右衛門	妻
庄右衛門伯父	同	姪
一，鳥目六銭老人前壱銭ツ、		
	才兵衛	妻
娘	同	同
一，鳥目四銭老人前壱銭ツ、		
	弥之介	妻
忼子	同	喜甚
一，鳥目六銭老人前壱銭ツ、		
	理兵衛	妻
理兵衛忼子		太

一、鳥目六錢壱人前壱錢ツゝ、
 同 娘 ひ さ
 同 弟 辰 之 介
 由左衛門
 妻
 弟 猪 之 介
 同 妻 か ま
 妹 あ き
 同 な つ
 吉兵衛
 妻
 母
 一、鳥目三錢壱人前壱錢ツゝ、
 一、鳥目六錢壱人前壱錢ツゝ、
 三郎左衛門
 妻
 娘 子 け さ
 忤 弟 百 介
 妹 権 介
 く に
 一、鳥目貳錢壱人前壱錢ツゝ、
 娘 小右衛門
 か く
 一、鳥目七錢壱人前壱錢ツゝ、
 与五兵衛
 妻
 父 市兵衛
 母
 与五兵衛忤子
 同 喜之介
 同 八之介
 三 太郎
 一、鳥目五錢壱人前壱錢ツゝ、
 喜兵衛
 妻
 忤 子 太 郎
 同 同 勘 三 郎
 三 五
 一、鳥目六錢壱人前壱錢ツゝ、
 弥次右衛門
 妻
 父 忠左衛門
 母
 弥次右衛門娘
 同 か ん
 ちやうめい
 一、鳥目八錢壱人前壱錢ツゝ、
 武右衛門
 妻
 母

忤 子 長 松
 娘 か や
 下 人 三 介
 同 傳 四 郎
 下 女 ね い
 一、鳥目拾三錢壱人前壱錢ツゝ、
 長十郎忤子
 同 妻 長 十 郎
 同 母 松
 同 娘 せ ん
 三 郎
 ち や う
 八郎兵衛後家
 後家忤子 平右衛門
 妻
 後家忤子 三 之 介
 下 人 仁 兵 衛
 下 女 ひ さ
 一、鳥目拾三錢壱人前壱錢ツゝ、
 甚左衛門
 妻
 忤 子 門 四 郎
 甚左衛門忤子 喜右衛門
 同 同 娘 百 介
 同 同 同 ち よ
 同 同 あ き
 門四郎忤子 い ぬ
 同 と ら
 同 三 太
 下 人 む ま
 傳 十 郎
 一、鳥目六錢壱人前壱錢ツゝ、
 弥兵衛
 妻
 忤 子 六 兵 衛
 妻
 弥兵衛娘 た ん
 同 き よ
 一、鳥目七錢壱人前壱錢ツゝ、
 勘左衛門
 妻
 忤 子 仁 兵 衛
 妻
 勘左衛門忤子 三 次 郎
 同 同 勘 三 郎
 仁兵衛忤子 う し

一、鳥目拾五銭老人前老銭ツ、

✓ 次左衛門
妻
忼子 弥惣兵衛
妻
弥惣兵衛忼子 七之介
同 娘 ちん
同 娘 まつ
同 娘 さか
同 娘 しやうぶ
下人 出来蔵
同 女 仁介
同 女 せち
同 女 あま
同 女 かみつの

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、

久五郎
妻
忼子 善三郎
娘 けと
同 ねい
同 聲 儀右衛門
妻
儀右衛門忼子 次郎介

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

太郎兵衛
妻
忼子 長太郎
娘 まと
同 ねめ

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

六郎左衛門
妻
忼子 太郎左衛門
同 娘 かつ
娘 あま

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

傳四郎
妻
娘 ねい
忼子 喜太郎
弟 すけん
同 か

一、鳥目九銭老人前老銭ツ、

✓ 勘十郎
妻

母
勘十郎忼子 市介
同 娘 百介
同 娘 よめ
同 妹 きり
下人 しも
小右衛門

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

三右衛門
妻
父 重左衛門
三右衛門養子 三七介
同 弟 兵衛

一、鳥目六銭老人前老銭ツ、

善兵衛
妻
娘 ふゆ
同 娘 こち
忼子 はな
子 仁太郎

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

市十郎
母
市十郎妹 はつ

一、鳥目五銭老人前老銭ツ、

八兵衛
妻
八兵衛娘 母ま
同 につ
に わ

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

忼子 与兵衛
加兵衛
妻

一、鳥目三銭老人前老銭ツ、

久三郎
母
久三郎妹 たま

一、鳥目拾銭老人前老銭ツ、

戸右衛門
妻
忼子 源兵衛
妻 八郎兵衛
戸右衛門忼子 八か
同 同 あま
同 同 きき
同 娘 郎く

源兵衛忒子 竹 松

一、鳥目六錢忒人前忒錢ツ、

善 五 郎
妻 あ ま 女
娘 同 忒 子 竹 蔵
養 子 権 太 郎
四 郎 兵 衛

一、鳥目七錢

一、鳥目五錢忒人前忒錢ツ、

与 惣 兵 衛
妻 は ま
娘 同 忒 子 こと ち よめ

一、鳥目九錢忒人前忒錢ツ、

長 右 衛 門
妻 三 郎 兵 衛
忒 子 妻 半 兵 衛
長右衛門忒子 三郎兵衛娘
同 同 忒 子 同 忒 子
同 同 忒 子 同 忒 子
同 同 忒 子 同 忒 子

一、鳥目六錢忒人前忒錢ツ、

安 左 衛 門
妻 け さ
娘 娘 同 忒 子 同 忒 子
同 同 忒 子 同 忒 子
同 同 忒 子 同 忒 子

一、鳥目九錢忒人前忒錢ツ、

加 左 衛 門
妻 次 郎 左 衛 門
忒 子 妻 せ ん 女
加左衛門娘 同忒子
同 同 忒 子 同 忒 子
同 同 忒 子 同 忒 子

一、鳥目五錢忒人前忒錢ツ、

作 左 衛 門
妻 庄 五 郎
忒 子 娘 同 忒 子 同 忒 子
同 同 忒 子 同 忒 子

一、鳥目五錢忒人前忒錢ツ、

三 太 郎
母 庄 之 介
弟 同 妹 十 三 郎
た ま

一、鳥目四錢忒人前忒錢ツ、

文 左 衛 門
妻 く め
娘 忒 子 い ち

一、鳥目三錢忒人前忒錢ツ、

徳 兵 衛
妻 庄 五 郎
養 子

一、鳥目六錢忒人前忒錢ツ、

平 三 郎
妻 平 蔵
忒 子 同 同 娘 久 平 六 六
同 同 娘 平 六 六
同 同 娘 同 同 娘

一、鳥目六錢忒人前忒錢ツ、

七 左 衛 門
妻 権 介
忒 子 同 藤 兵 衛
同 同 藤兵衛娘 妻 げ ん

一、鳥目四錢忒人前忒錢ツ、

兵 三 郎
妻 た ん 女
娘 忒 子 八 之 介
同 同 娘 同 同 娘

一、鳥目五錢忒人前忒錢ツ、

金 兵 衛
妻 太 郎 市
忒 子 同 娘 竹 蔵
同 同 娘 同 同 娘

一、鳥目六錢忒人前忒錢ツ、

七 郎 右 衛 門
妻 八 郎 兵 衛
忒 子 妻 七 郎 右 衛 門
同 同 娘 同 同 娘
同 同 娘 同 同 娘

一、鳥目三錢忒人前忒錢ツ、

甚 之 介

	十郎右衛門	
娘	妻	
	ま	さ
一、鳥目四錢	壱人前	壱錢ツ、
	八右衛門	
娘	妻	
	ふ	り
同	た	ん
一、鳥目七錢	壱人前	壱錢ツ、
	八左衛門	
娘	妻	
	り	ん
同	い	や
忼子	三	吉
同	む	ま
同	才	十郎
一、鳥目五錢	壱人前	壱錢ツ、
	佐兵衛	
忼子	妻	
同	長	三郎
同	う	し
	午	之介
一、鳥目六錢	壱人前	壱錢ツ、
	✓ 甚五左衛門	
弟	妻	
下人	源五右衛門	
下女	三	十郎
同	な	つま
一、鳥目三錢	壱人前	壱錢ツ、
	角左衛門	
忼子	妻	
	甚	太郎
一、鳥目四錢	壱人前	壱錢ツ、
	弥次兵衛	
娘	妻	
同	な	つ
	せ	ん
一、鳥目三錢	壱人前	壱錢ツ、
	半左衛門	
娘	妻	
	は	な
一、鳥目五錢	壱人前	壱錢ツ、
	天台宗永安寺住持	
弟子	乗	海
同	恵	教坊
道心	聖	教坊
下人	常	念
	又	右衛門

一、鳥目三錢 壱人前 壱錢ツ、

	日蓮宗妙法寺住持	立	玄
	隱居	春	山
	弟子	長	次郎
人数	合	五百六拾貳人	
鳥目	合	五百八拾貳錢	
		但目錢共	

13 横根村

(鳥目のこと脱カ) ✓ 善兵衛

	妻	
	母	
善兵衛弟	五郎	兵衛
	妻	
善兵衛忼子	三	太郎
同	金	三郎
同	丹	松
同娘	あ	き
同	な	つ
下人	權	右衛門
人数	合	拾貳人
鳥目	合	拾貳錢

14 宇奈根村

一、鳥目拾五錢 壱人前 壱錢宛

	名主	✓ 荒居	市郎	兵衛
			妻	
	忼子	駒	之	介
	下人	八	兵衛	
	同	權	左衛門	
	同	佐	次兵衛	
	同	安	右衛門	
	同	由	右衛門	
	同	源	介	
	同	角	介	
	下女	い	ち	や
	同	た	ま	ん
	同	ま	よ	し
	同	い	と	
一、鳥目五錢	壱人前	壱錢宛		
	年寄	海老沢	三右衛門	
		妻		
	娘	は	な	
	忼子	縫	左衛門	
	同	六	之介	
一、鳥目貳拾	壱錢 壱人前	壱錢宛		
	年寄	✓ 海老沢	善	十郎

妻	権	右	衛	門
母	文	五	郎	
父	ふ	徳	介	
祖	六	右	衛	門
善	勘	十	郎	
十	吉	兵	衛	
郎	勘	兵	衛	
同	久	三	郎	
弟	権	四	郎	
妹	ふ		し	
人	ま		つ	
同	き		さ	
下	こ		ま	
同	つ		た	
同	ひ		さ	
同	つ		ま	
同	ふ		り	

一、鳥目拾銭壱人前壱銭ツ、

年	寄	✓	香	取	弥次右衛門
					妻
			娘	し	う
			同	た	ち
			同	か	よ
			下	三	郎
			同	七	衛
			下	は	な
			同	ま	つ
			同	は	つ

一、鳥目貳拾貳銭壱人前壱銭ツ、

✓	傳	右	衛	門
	妻			
	母			
傳右衛門倅子	儀	左	衛	門
	妻			
娘	つ		や	
傳右衛門倅子	吉	右	衛	門
	妻			
倅子	三	之	介	
傳右衛門娘	よ		し	
同娘	さ		わ	
同倅子	弟		松	
下人	与	兵	衛	
同	権		介	
同	三		助	
同	才		郎	

同	長	四	郎
下	か		や
女	た		ま
同	な		つ
同	ま		き
同	は		つ

一、鳥目拾六銭壱人前壱銭ツ、

	庄	右	衛	門
	妻			
倅子	縫	右	衛	門
	妻			
縫右衛門倅子	長		吉	
同娘	と		わ	
同娘	へ		や	
同養子娘	ひ		さ	
下人	久		助	
同	喜	右	衛	門
同	弥	兵	衛	
同	清		蔵	
下女	な		つ	
同	ま		つ	
同	ひ		さん	
同	セ			

一、鳥目七銭壱人前壱銭ツ、

	猪	右	衛	門
	妻			
倅子	門	左	衛	門
	妻			
門左衛門娘	さ		わ	
同倅子	と		ら	
同倅子	傳			

一、鳥目拾銭壱人前壱銭ツ、

✓	弥	五	左	衛	門
	妻				
	母				
弥五左衛門娘	せ		ん		
同倅子	牛				
同娘	か		ん		
下人	猪	左	衛	門	
同	市	兵	衛		
下女	た		つ		
下人	長	め	い		

一、鳥目八銭壱人前壱銭ツ、

	八	郎	兵	衛
	妻			
娘	よ		ね	
倅子	三	之	介	
同	小	三	郎	

	娘 八郎兵衛弟	あ 忠	ま 左衛門 妻
一、鳥目四錢壱人前壱錢ツ、		仁 妻 母	兵衛 さ
一、鳥目六錢壱人前壱錢ツ、	仁兵衛娘	ひ	
	✓	太 妻 母	兵衛 午
	太兵衛倅子 同倅子 下人	長 喜	四郎 右衛門
一、鳥目六錢壱人前壱錢ツ、		勘 妻 父	左衛門 次郎兵衛 母
	勘左衛門倅子 下女	と こ	ら ちよ
一、鳥目五錢壱人前壱錢ツ、		五郎右衛門 妻 権 と 八	四郎 め 介
一、鳥目五錢壱人前壱錢ツ、		佐右衛門後家 娘 同 同	ね さ つ 後
	甚五左衛門	い わ や 家	
一、鳥目九錢壱人前壱錢ツ、		✓	作左衛門 妻 母
	作左衛門倅子	源 妻 ひ	兵衛 やく
	源兵衛娘 下人	九 妻	右衛門 三郎
一、鳥目五錢壱人前壱錢ツ、	九右衛門倅子	八	
		甚 母 た	右衛門 つ
	甚右衛門弟		

	同 下	妹 女	こ あ	あ ま
一、鳥目六錢壱人前壱錢ツ、			七郎兵衛 妻 猪 と あ	介 松 まい
	倅 同 娘 同	子		
一、鳥目四錢壱人前壱錢ツ、			傳兵衛 妻 半 竹	兵衛 蔵
	倅 同	子		
一、鳥目拾貳錢壱人前壱錢ツ、			次右衛門 妻 弥 妻 と あ 万 は あ ひ へ	五兵衛 ら う ま 吉 つ ま つ ん
	倅 同 娘 同 娘 同 娘 同 娘	子		
	弥五兵衛倅子 同倅子 同娘 次右衛門倅子 同娘 同娘 同娘 同娘			
一、鳥目七錢壱人前壱錢ツ、			善兵衛 妻 善 権 い く 弟	左衛門 八 ぬ め 松
	倅 同 同 娘 倅 子	子		
一、鳥目拾錢壱人前壱錢ツ、			✓	長左衛門 妻 与 妻 長 空 五 た は あ
	倅 同 同 娘 同 同 同	子		
	与四郎倅子 下人 同 下女 同 同			
一、鳥目六錢壱人前壱錢ツ、				平左衛門

妻
母 庄之介
同娘 こちよ
同倅子 次郎

一、鳥目三銭老人前壱銭ツゝ

慶喜
弟 善三郎
妹 とめ

一、鳥目七銭老人前壱銭ツゝ

✓惣左衛門
父 妻 太郎左衛門
惣左衛門倅子 母 久太郎
下人 門三郎
下女 つた

一、鳥目七銭老人前壱銭ツゝ

✓武兵衛
倅子 妻 彦太郎
同 同 文次郎
同 同 女 あしま
下人 長蔵

一、鳥目九銭老人前壱銭ツゝ

✓七郎左衛門
娘 妻 しやう
倅子 し熊之介
同 同 権
下人 佐五兵衛
同 同 女 作右衛門
同 はまん
同 まん

一、鳥目七銭老人前壱銭ツゝ

七右衛門
妻 母 かね
七右衛門娘 同倅子 牛
同娘 たん
同弟子 長四郎

一、鳥目六銭老人前壱銭ツゝ

五郎兵衛
妻 母 三太郎
五郎兵衛倅子

同倅子 いぬ
同娘 りん

一、鳥目七銭老人前壱銭ツゝ

六左衛門
妻 母
六左衛門倅子 牛
同倅子 たにん
同弟 権
同妹 そめ

一、鳥目四銭老人前壱銭ツゝ

八郎左衛門
妻 娘 まつ
倅子 とら

一、鳥目六銭老人前壱銭ツゝ

安左衛門
妻 父 久右衛門
母 傳三郎
久右衛門弟 安左衛門倅子 太郎

一、鳥目八銭老人前壱銭ツゝ

✓平兵衛
娘 妻 かね
同倅子 たん
同 同 傳権
下人 市兵衛
下女 たつ

一、鳥目五銭老人前壱銭ツゝ

清三郎
妻 賀 六兵衛
妻 甚
六兵衛倅子

一、鳥目九銭老人前壱銭ツゝ

三郎右衛門
妻 倅子 七郎右衛門
妻 とら
七郎右衛門倅子 同倅子 太郎
三郎右衛門倅子 同娘 長松
同弟 惣兵衛

一、鳥目四銭老人前壱銭ツゝ

七左衛門
妻三太郎
ひつ

一、鳥目七錢老人前老錢ツ、

善兵衛
妻た
娘子さ
下人ん
下女く
同あま

一、鳥目四錢老人前老錢ツ、

天台宗觀音寺住持
弟子明
下人進
同六兵衛
宇之介

一、鳥目式錢老人前老錢ツ、

日蓮宗常光寺住持
下人日梅
弥兵衛

人数合 式百九拾四人
鳥目合 三百六錢
但目錢共

15 岩戸村

一、鳥目拾五錢老人前老錢ツ、

名主 川合次左衛門
父妻七左衛門
次左衛門子母之助
同娘牛きく
同娘かね
下人長兵衛
同久七衛
同庄三郎
同てき蔵
下女ふく
同まっ
同よし

一、鳥目六錢老人前老錢ツ、

次郎右衛門
妻三郎
子平三郎
同とら之介
同しな
同つか

一、鳥目三錢老人前老錢ツ、

年寄 秋本喜右衛門
喜右衛門妹母ひさ

一、鳥目拾老錢老人前老錢ツ、

年寄 秋本吉左衛門
吉左衛門子妻甚兵衛
同子三之介
同娘たんちよ
同妹はつ
同弟猪右衛門
猪右衛門娘妻さつき
同娘あ

一、鳥目三錢老人前老錢ツ、

子新右衛門
同半四郎

一、鳥目六錢老人前老錢ツ、

年寄 小川八郎左衛門
子傳介
同次郎
下人長蔵
下女あき

一、鳥目六錢老人前老錢ツ、

子八郎右衛門
六郎兵衛
妻市三郎
同子吉三郎
八郎右衛門子傳十郎

一、鳥目拾錢老人前老錢ツ、

子八左衛門
同妻弥五左衛門
六右衛門
妻金三
六右衛門子ねい
八左衛門娘びい
同娘徳兵衛
同子德ま
同娘ん

一、鳥目六錢老人前老錢ツ、

子久左衛門
同弥兵衛

妻
弥兵衛 忒子
同 娘
久左衛門 忒子
八 兵 衛
一、鳥目六銭 忒人前 忒銭ツゝ、
八 郎 兵 衛
妻
忒 子
娘
同
清 五 郎
あ き
な つ
ふ り
一、鳥目四銭 忒人前 忒銭ツゝ、
三 左 衛 門
妻
忒 子
同
權 八
一、鳥目七銭 忒人前 忒銭ツゝ、
十 兵 衛
妻
忒 子
同
娘
同
源 太 郎
牛 ん
へ ま
あ う
一、鳥目七銭 忒人前 忒銭ツゝ、
仁 左 衛 門
妻
忒 子
太郎 兵 衛
妻
太郎 兵 衛 忒子
同 忒子
同 娘
甚 介
た つ
は つ
一、鳥目三銭 忒人前 忒銭ツゝ、
清 兵 衛
忒 子
七 郎 右 衛 門
妻
一、鳥目五銭 忒人前 忒銭ツゝ、
孫 市
妻
忒 子
清 三 郎
妻
孫市 忒子
市 介
一、鳥目四銭 忒人前 忒銭ツゝ、
✓ 傳 兵 衛
妻
娘
下 人
か つ
次 郎
一、鳥目八銭 忒人前 忒銭ツゝ、

✓ 長 右 衛 門
妻
母
長右衛門 娘
同 忒子
同 忒子
同 妹
下 人
は つ
千 太 郎
長 ま つ
三 次 郎
一、鳥目三銭 忒人前 忒銭ツゝ、
半 兵 衛
妻
忒 子
權 之 介
一、鳥目七銭 忒人前 忒銭ツゝ、
✓ 甚 左 衛 門
妻
忒 子
五 兵 衛
妻
五兵衛 娘
下 人
同
い ぬ
庄 三 郎
牛
一、鳥目五銭 忒人前 忒銭ツゝ、
傳 右 衛 門
妻
忒 子
同
同 娘
久 太 郎
大 る
す
一、鳥目八銭 忒人前 忒銭ツゝ、
傳 左 衛 門
妻
忒 子
同
同 娘
同 忒子
同
下 女
助 八
七 し
よ 介
三 郎
五 郎
な つ
一、鳥目三銭 忒人前 忒銭ツゝ、
吉右衛門 後家
娘
同
ゆ り
く に
一、鳥目四銭 忒人前 忒銭ツゝ、
勘 兵 衛
妻
忒 子
娘
市 郎 兵 衛
し ま
一、鳥目四銭 忒人前 忒銭ツゝ、
左 五 兵 衛
妻
娘
ゆ り

一、鳥目六錢壱人前壱錢ツ、
 德左衛門
 妻
 母
 德左衛門忒子
 同忒子
 同弟
 太 郎
 五 郎
 十 右衛門
 市 右衛門
 妻
 娘
 同
 た ち
 こ ち
 よ
 権 左衛門
 妻
 娘
 忒子
 娘
 同
 ま ん
 八
 ふ う
 ふ く
 一、鳥目五錢壱人前壱錢ツ、
 年寄 ✓ 上 野 平 兵衛
 妻
 忒子
 下 人
 平 右衛門
 妻
 彦 兵衛
 一、鳥目四錢壱人前壱錢ツ、
 新 左衛門
 妻
 忒子
 新左衛門弟
 新 蔵
 金 十 郎
 一、鳥目六錢壱人前壱錢ツ、
 勘 十 郎
 母
 傳
 同 弟
 同 弟
 同 弟
 猪 之 介
 権
 大 助
 一、鳥目四錢壱人前壱錢ツ、
 德 兵衛
 妻
 母
 德兵衛忒子
 六 之 介
 一、鳥目六錢壱人前壱錢ツ、
 平 左衛門
 妻
 忒子
 七 郎 兵衛
 妻

平左衛門忒子
 同 娘
 く ら
 ゆ り
 一、鳥目五錢壱人前壱錢ツ、
 六 左衛門
 妻
 忒子
 同 娘
 と ら 蔵
 長 次 郎
 し も
 一、鳥目拾四錢壱人前壱錢ツ、
 年寄 ✓ 須 田 権 兵衛
 妻
 忒子
 庄右衛門娘
 同忒子
 権兵衛忒子
 同忒子
 同 娘
 同忒子
 同忒子
 下 人
 同 下 女
 庄 右衛門
 妻
 は つ
 か ま
 源 右衛門
 権 十 郎
 と め
 市 三 郎
 九 蔵
 仁 蔵
 長 四 郎
 あ ま
 一、鳥目四錢壱人前壱錢ツ、
 次 郎 兵衛
 母
 次郎兵衛妹
 同 妹
 あ き
 に く
 一、鳥目四錢壱人前壱錢ツ、
 作 右衛門
 妻
 娘
 同
 た ち
 い め
 一、鳥目四錢壱人前壱錢ツ、
 長 左衛門
 妻
 忒子
 同
 長 太
 三 次 郎
 一、鳥目五錢壱人前壱錢ツ、
 三 郎 兵衛
 妻
 忒子
 三郎右衛門
 妻
 三郎右衛門忒子
 三 五 郎
 一、鳥目六錢壱人前壱錢ツ、
 年寄 秋 本 猪 兵衛
 妻
 忒子
 八 兵衛

妻
八兵衛忒子 太郎
猪兵衛娘 ミ つ

一、鳥目四銭壹人前壹銭ツ、

仁右衛門
妻
娘 な つ
忒子 勘 次 郎

一、鳥目六銭壹人前壹銭ツ、

五郎兵衛
妻
忒子 百
五郎兵衛弟 仁右衛門
同 弟 金 十 郎
同 甥 太 郎

一、鳥目三銭壹人前壹銭ツ、

又 兵 衛
妻
娘 す て

一、鳥目五銭壹人前壹銭ツ、

次右衛門
妻
娘 き い
忒子 く め
同 三 太

一、鳥目三銭壹人前壹銭ツ、

天台宗明静院住持 学 善
弟 子 三 位
下 人 関 蔵
浄土宗慶厳寺住持 傳 栄

一、鳥目壹銭

人数 合 貳百四拾九人
鳥目 合 貳百五拾七銭
但目銭共

16 猪 方 村

一、鳥目拾銭壹人前壹銭ツ、

名主 ✓ 小 川 次 郎 兵 衛
妻
忒子 千 松
同 牛 之 助
同 百 仁 兵 衛
下 人 市 蔵
同 市 八 蔵
下 女 な つ
同 か や

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、

年寄 ✓ 小 川 太 左 衛 門

妻
養子 吉 三 郎
娘 ま せ つ
同 下 人 孫 兵 衛
下 女 た つ

一、鳥目八銭壹人前壹銭ツ、

年寄 小 川 文 右 衛 門
妻
忒子 庄 之 助
娘 せ き
忒子 三 蔵
同 お と
娘 ふ り
忒子 孫

一、鳥目六銭壹人前壹銭ツ、

年寄 安 田 八 右 衛 門
妻
弟 与 四 右 衛 門
同座頭 慶 千 代
八右衛門娘 ふ て
下 女 た つ

一、鳥目六銭壹人前壹銭ツ、

年寄 ✓ 小 川 市 郎 左 衛 門
父
市郎左衛門忒子 妻 次 兵 衛
同 娘 猪 之 助
下 人 か ん
吉 兵 衛

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、

猪 右 衛 門
妻
母 と め
同 弟 猪 之 助
同 猪 か つ
同 平 吉

一、鳥目六銭壹人前壹銭ツ、

市 兵 衛
妻 甚 兵 衛
忒子 妻 十 郎
甚兵衛忒子 市 太 郎
同 庄

一、鳥目六銭壹人前壹銭ツ、

太 兵 衛
妻 之 助
忒子 市

一、鳥目四錢老人前壱銭ツ、
 一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目貳銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目貳銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目三銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目貳銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目拾銭老人前壱銭ツ、

同 久 太 郎
 同 娘 さ つ
 同 あ ま
 七 左 衛 門
 妻 さ わ
 娘 子 太 郎
 清 兵 衛
 妻 吉 左 衛 門
 父 子 庄 左 衛 門
 妻 い め
 清兵衛娘 同 さ こ
 同 あ ま
 同 た つ
 同 子 庄 之 助
 武 右 衛 門
 妻 母
 武右衛門弟 同 牛 之 助
 同 妹 よ し
 同 娘 た ん 女
 半 右 衛 門
 妻
 市 右 衛 門
 妻
 与四兵衛 妻
 子 源
 同 勘
 彦 兵 衛
 妹 こ ち よ
 新 左 衛 門
 妻 權
 子 同 さ ご
 同 三 平
 八郎右衛門
 妻

一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、

子 文 左 衛 門
 八郎右衛門子 妻 三 右 衛 門
 文左衛門娘 妻 ふ く
 同 し も
 同 子 三 助
 三右衛門子 長 太 郎
 九 郎 兵 衛
 妻 と ら 之 助
 子 娘 さ か
 同 ふ き
 一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目七銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、

半 兵 衛
 妻 甚 之 助
 同 万 作
 娘 げ ん
 同 た つ
 下 人 久 右 衛 門
 一、鳥目六銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目五銭老人前壱銭ツ、
 一、鳥目四銭老人前壱銭ツ、

太 郎 兵 衛
 妻 い め
 娘 し や う
 同 つ ね
 同 子 猪 之 助
 下 人 吉 右 衛 門
 七 兵 衛
 妻 小 右 衛 門
 子 妻 す ぎ
 七兵衛娘 同 娘 こ ち よ
 喜 左 衛 門
 妻 六 右 衛 門
 子 妻 長 太
 六右衛門子
 七 右 衛 門
 娘 妻 び い
 子 与 三 郎

一、鳥目九銭老人前壱銭ツゝ

佐次兵衛
妻
妹 か な
佐次兵衛忒子 八
同 娘 ね い
同 と ら
同 へ や
同忒子 六
同 五 郎

一、鳥目四銭老人前壱銭ツゝ

九兵衛
妻
忒子 才 二 郎
娘 さ る

一、鳥目三銭老人前壱銭ツゝ

権右衛門
妻
娘 け さ

一、鳥目五銭老人前壱銭ツゝ

孫左衛門
妻
娘 さ く
忒子 大 助
同 三 太 郎

一、鳥目五銭老人前壱銭ツゝ

作右衛門
妻
忒子 久 太 郎
同 熊
娘 ふ り

一、鳥目六銭老人前壱銭ツゝ

半左衛門
妻
忒子 与 兵 衛
同 三 之 助
娘 り ん
同 ひ さ

一、鳥目五銭老人前壱銭ツゝ

長兵衛
養子 又 兵 衛
妻
又兵衛忒子 い ぬ
同 娘 べ ん

一、鳥目七銭老人前壱銭ツゝ

太郎右衛門
妻
聲 五 左 衛 門

太郎右衛門忒子 妻
座 頭 了 竹
同忒子 牛
五左衛門忒子 孫 三 郎
人数 合 百七拾八人
鳥目 合 百八拾貳文
(ママ)
但目銭共

17 和 泉 村

一、鳥目六銭老人前壱銭ツゝ

名主 石 居 伝左衛門
妻
忒子 源右衛門
妻
伝左衛門忒子 五 郎
同忒子 八

一、鳥目七銭老人前壱銭ツゝ

年寄 新 居 九郎左衛門
妻
忒子 三郎左衛門
妻
九郎左衛門忒子 熊 之 介
同 娘 あ き
同 娘 よ し

一、鳥目九銭老人前壱銭ツゝ

年寄 市 川 傳右衛門
妻
母
伝右衛門娘 い ぬ
同 娘 か な
伝右衛門弟 と ら
同 妹 こ ち よ
同 弟 三 之 助
同 弟 六 助

一、鳥目六銭老人前壱銭ツゝ

年寄 小 町 長左衛門
妻
娘 は ん
同 り ん
同 ゆ り
長左衛門弟 文 左 衛 門

一、鳥目九銭老人前壱銭ツゝ

四郎左衛門
妻
忒子 と ら
娘 ち や う
同 こ ち よ
同 ま き

同 け さ
四郎左衛門弟 四郎兵衛
妻

一、鳥目七錢老人前壱銭ツ、

✓ 八郎兵衛
妻
母

八郎兵衛妹 八郎兵衛
同 弟 妻
同 弟 母
下 人 子

一、鳥目六錢老人前壱銭ツ、

彦左衛門
妻
とく
仁左衛門
妻
ま ん

一、鳥目八錢老人前壱銭ツ、

権左衛門
妻
竹 蔵
傳
吉
権
牛
あ ま

一、鳥目七錢老人前壱銭ツ、

十左衛門
妻
助
て う
文 太
庄 太
権

一、鳥目三錢老人前壱銭ツ、

勘右衛門
妻
よ し

一、鳥目三錢老人前壱銭ツ、

傳 蔵
母
す て

一、鳥目三錢老人前壱銭ツ、

七左衛門
妻
母

一、鳥目五錢老人前壱銭ツ、

八 兵 衛
母
か つ
せ ん
ち や う

一、鳥目貳錢老人前壱銭ツ、

甚 五 郎
母

一、鳥目六錢老人前壱銭ツ、

次右衛門
妻
長 八
午
八
ち や う

一、鳥目七錢老人前壱銭ツ、

与次右衛門
与 兵 衛
妻
は つ
勘 次 郎
は な
六 助

一、鳥目六錢老人前壱銭ツ、

弥五右衛門
妻
母
松 蔵
権 十 郎
妻

一、鳥目五錢老人前壱銭ツ、

八右衛門
妻
四郎兵衛
加右衛門
こ ち よ

一、鳥目六錢老人前壱銭ツ、

市郎右衛門
妻
母
は つ
孫 右 衛 門
ね い

一、鳥目五錢老人前壱銭ツ、

久左衛門
妻
つ し
長 太

娘 く め
一、鳥目四銭老人前壱銭ツゝ
安左衛門
妻
娘 ちやうく
同 ろく
一、鳥目四銭老人前壱銭ツゝ
勘左衛門
妻
娘 はなけ
忤子 すけ
一、鳥目五銭老人前壱銭ツゝ
作兵衛
妻
母
作兵衛弟 六右衛門
同妹 にわ
一、鳥目三銭老人前壱銭ツゝ
三左衛門
忤子 牛三介
同
一、鳥目四銭老人前壱銭ツゝ
市郎兵衛
妻
娘 やすく
忤子 ずく
一、鳥目五銭老人前壱銭ツゝ
弥右衛門
妻
忤子 ミの
同 牛
弥右衛門弟 弥五左衛門
一、鳥目四銭老人前壱銭ツゝ
佐五兵衛
妻
忤子 竹蔵
同 かま
一、鳥目三銭老人前壱銭ツゝ
四郎右衛門
娘 とら
忤子 午
一、鳥目五銭老人前壱銭ツゝ
吉右衛門
妻
娘 たんちより
同 ふら
同 とら
一、鳥目四銭老人前壱銭ツゝ

勘三郎
妻
娘 こちよ
忤子 さんご
一、鳥目五銭老人前壱銭ツゝ
山伏 ✓ 多宝院
弟子 行宝院
妻
行宝院忤子 弁之介
下人 七郎兵衛
人数 合 百六拾貳人
鳥目 合 百六拾六銭
但目銭共

18 八幡山村

一、鳥目拾四銭老人前壱銭ツゝ
年寄 ✓ 嶋田 権右衛門
妻
母
権右衛門忤子 権太郎
下人 半三郎
同 三助
同 文次右衛門
同 長三郎
下女 たねまつ
同 あまつ
同 かまつ
下人 長兵衛
妻
一、鳥目拾壱銭老人前壱銭ツゝ
年寄 ✓ 植村 市右衛門
妻
忤子 六之介
娘 なさる
同 利兵衛
市右衛門弟
下人 長吉
同 次郎
同 あけさ
一、鳥目拾銭老人前壱銭ツゝ
三左衛門
妻
三左衛門忤子 権之助
妻
三左衛門忤子 源助

	同	半	助
	同	しやう	ふ
	権之介	猪之	助
	同	さ	つな
	下	女	
一，鳥目四錢壹人前壹錢ツゝ		徳兵衛	
		母	しん
	弟	う	
	妹	べ	ん
一，鳥目四錢壹人前壹錢ツゝ		権助	
		妻	
	忤子	七兵衛	
	同	権	七
一，鳥目七錢壹人前壹錢ツゝ		惣左衛門	
	✓	妻	
		母	ん
	娘	き次郎	八
	下	人	衛
	同	女	つ
一，鳥目七錢壹人前壹錢ツゝ		猪右衛門	
		妻	
	忤子	七兵衛	
	同	猪之介	
	弟	甚兵衛	
	同	く	ま
	同	権	衛
一，鳥目八錢壹人前壹錢ツゝ		傳左衛門	
	✓	猪兵衛	
	忤子	妻	
	傳左衛門	太兵衛	
	猪兵衛	之介	
	同	辰かめ	ま
	娘	む	ま
	下	人	
	下	女	
一，鳥目七錢壹人前壹錢ツゝ		市右衛門	
		妻	
	妹	母	も
	忤子	し	之
	伯	市一郎	右衛門
		妻	

一，鳥目六錢壹人前壹錢ツゝ

		三郎兵衛
		妻
		母
	忤子	き
	娘	よ
	弟	平兵衛

一，鳥目九錢壹人前壹錢ツゝ

		✓	彦兵衛
		妻	
		母	
	忤子	げ	ん
	同	仁	蔵
	弟	七郎兵衛	
		妻	
	七郎兵衛	ちやう	
	娘	左平次	
	下	人	
人数	合	八拾七人	
鳥目	合	八拾七錢	

19 太子堂村

一，鳥目拾七錢壹人前壹錢ツゝ

		✓	彦右衛門
		妻	
	忤子	九右衛門	
		妻	
	九右衛門	いぬ	
	娘	ゆり	
	同	清吉	
	同	長五郎	
	同	八兵衛	
	下	七権三郎	
	同	同	
	同	同	
	同	同	
	同	同	
	同	同	
	下	女	
	同	同	
	同	同	
		は	つ

一，鳥目五錢壹人前壹錢ツゝ

		左次兵衛
		妻
	婢	喜兵衛
		妻
	忤子	太郎
人数	合	貳拾貳人
鳥目	合	貳拾貳錢

20 馬引沢村

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、

小 林 次郎左衛門
 妻
 忤 子 安 右 衛 門
 同 次 郎 介
 娘 り ん
 同 く め
 次郎左衛門弟 源 兵 衛

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、

新 左 衛 門
 妻
 忤 子 次郎右衛門
 同 喜 三 郎
 娘 お な
 忤 子 三 右 衛 門
 妻

一、鳥目三銭壹人前壹銭ツ、

又 兵 衛
 妻
 忤 子 孫 左 衛 門

一、鳥目五銭壹人前壹銭ツ、

金 兵 衛
 妻
 忤 子 七
 同 げ ん
 娘 る す

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、

太 郎 兵 衛
 妻
 母
 太郎兵衛忤子 千 太 郎
 太郎兵衛弟 佐 次 兵 衛
 同 妹 あ ち よ
 同 弟 長 松

一、鳥目三銭壹人前壹銭ツ、

長 右 衛 門
 妻
 母

一、鳥目三銭壹人前壹銭ツ、

德 兵 衛
 妻
 忤 子 喜 兵 衛

一、鳥目貳銭壹人前壹銭ツ、

傳 右 衛 門
 妻

一、鳥目七銭壹人前壹銭ツ、

✓ 三 左 衛 門

妻

娘 あ き
 同 な つ
 忤 子 虎 之 介
 下 人 佐 右 衛 門
 同 八 兵 衛

人数 合 四拾四人

鳥目 合 四拾四銭

惣 寄

一、千六百拾三人 1 世 田 谷 村
 内（八百六拾四人 男
 七百貳人 女
 四拾七人 出家
 —此鳥目壹貫六百七拾七文 但目銭共

一、百五拾貳人
 内（四拾八人 出家（同所御朱印
 五拾八人 男 寺社并豪徳寺江湖ニ
 四拾六人 女 参候出家共ニ
 —此鳥目百五拾六文 但目銭共

一、貳百貳拾六人 2 弦 卷 村
 内（百貳拾四人 男
 九拾六人 女
 六人 出家
 —此鳥目貳百三拾四文 但目銭共

一、三百三拾貳人 3 新 町 村
 内（百七拾九人 男
 百五拾壹人 女
 貳人 出家
 —此鳥目三百四拾四文 但目銭共

一、五百八拾八人 4 用 賀 村
 内（貳百八拾八人 男
 貳百九拾三人 女
 七人 出家
 —此鳥目六百拾貳文 但目銭共

一、貳百九拾四人 5 野 良 田 村
 内（百六拾九人 男
 百貳拾四人 女
 壹人 出家
 —此鳥目三百六文 但目銭共

一、百拾貳人 6 小 山 村
 内（五拾七人 男
 五拾四人 女
 壹人 出家
 —此鳥目百拾六文 但目銭共

一、三百三拾九人	7	下野毛村
内（百八拾六人 男 百五拾人 女 三人 出家		
此鳥目三百五拾壹文 但目錢共		
一、百三拾壹人	8	上野毛村
内（六拾九人 男 五拾九人 女 三人 出家		
此鳥目百三拾五文 但目錢共		
一、六百五人	9	瀬田村
内（三百三拾三人 男 貳百六拾四人 女 八人 出家		
此鳥目六百貳拾九文 但目錢共		
一、貳百三拾七人	10	岡本村
内（百三拾六人 男 九拾九人 女 貳人 出家		
此鳥目貳百四拾五文 但目錢共		
一、百四拾人	11	鎌田村
内（七拾三人 男 六拾六人 女 壹人 出家		
此鳥目百四拾四文 但目錢共		
一、五百六拾貳人	12	大蔵村
内（貳百九拾六人 男 貳百六拾人 女 六人 出家		
此鳥目五百八拾貳文 但目錢共		
一、貳百九拾四人	13	宇奈根村
内（百四拾八人 男 百四拾三人 女 三人 出家		
此鳥目三百六文 但目錢共		
一、貳百四拾九人	14	岩戸村
内（百三拾六人 男 百拾人 女 三人 出家		
此鳥目貳百五拾七文 但目錢共		

一、百七拾八人	15	猪方村
内（九拾六人 男 八拾三人 女		
此鳥目百八拾貳文 但目錢共		
一、百六拾貳人	16	和泉村
内（八拾三人 男 七拾九人 女		
此鳥目百六拾六文 但目錢共		
一、八拾七人	17	八幡山村
内（四拾七人 男 四拾人 女		
此鳥目八拾七文		
一、四拾四人	18	下馬引沢村
内（貳拾五人 男 拾九人 女		
此鳥目四拾四文		
一、貳拾貳人	19	太子堂村
内（拾三人 男 九人 女		
此鳥目貳拾貳文		
一、拾貳人	20	横根村
内（六人 男 六人 女		
此鳥目拾貳文		
村数 合 貳拾ヶ村		
人数 合 六千三百七拾九人		
六千貳百貳拾七人		
内（三千三百貳拾七人 男 貳千八百七人 女 九拾三人 出家		御領分
内 百三拾壹人		
内（貳拾七人 出家 五拾八人 男 四拾六人 女		御朱印寺社 門前共ニ
貳拾壹人 豪徳寺江湖ニ付他所ニ参居候出家		
鳥目 合 六貫六百四拾三文 但目錢共		
内 百五拾六文 御朱印寺社門前共并豪徳寺江湖ニ付参居候出家共ニ		
以上		
元禄八年乙亥六月十二日	改人	加藤浅右衛門 ㊦

（「世田谷区史料第三集」507～590 頁）

（4）江戸時代初期における農業経営形態と家族形態

以上の資料として掲げた「元禄八年世田谷貳拾ヶ村村御帳」は村落共同体の「下人経営」者である豪農層による地主制手作経営の展開を表示するものである。この点で速水 融^{はやみ あきら}教授が「下人経営」を中世の農業遺産として位置づけている点はこの世田谷二拾ヶ村における豪農層

である代官大場家を頂点にする村役人層（名主、年寄等）の村落共同体支配の強靱性を現している。とするなら、中世の農業遺産である「下人経営」の実態を見てみると 145 頁の図表-3 の「世田谷二十ヶ村の「下人経営」者の分布」として要約される。

この図表-3 に見出される世田谷二十ヶ村における「下人経営」の規模を大小の順位毎に並べて見ると 146 頁の図表-4「村落毎「下人経営」の規模別分布」となる。

この 146 頁図表-4 は「下人経営」の(1)規模別分布と(2)その「下人経営」者の地位とを示すものである。速水融教授が中世の農業経営の典型として類型化された「下人経営」が依然として江戸幕府の初期段階（元禄 8 年（1695））において世田谷二十ヶ村落の中で支配的形態として根付いているのである。

図表-4 において注目すべき第 1 の点は、瀬田村の名主長崎四郎右衛門の「下人経営」規模での下人数 35 人と世田谷村代官大場市左衛門の下人数 26 人とを頂点にする世田谷村二十ヶ村での富士山型ピラミッド型の展開である。この「下人経営」のピラミッドの頂点に立つ代官大場市左衛門は後北条時代の吉良家の重臣として世田谷城を館にする中世在地領主として世田谷村を支配する士豪地主^{みょうしゅ}且つ名主として荘園支配を続け、その直営地を隷属民である下人に耕作させているのである。中世の荘園は摂関家、或いは名門神社の支配委託を受けた在地領主の名主としての地域支配権を世襲化させ続け、近世へ移行する。しかし、豊臣秀吉の検地令は直接奉行の派遣の下で縄入れをさせ、面積・地味・生産等を調査し、収獲物に対して貢租を負担する農民を決定し、小農民の自立的発展を推進する土地政策である。それゆえ、豊臣秀吉、さらに徳川家康は検地制度を通して荘園制を解体させ、近世的小農民の自立する村落共同体の自治体制を成立、発展させることを近世の農業＝土地政策の基本と位置づけるのである。近世は荘園制から村落共同体への移行に伴ない、小農民の貢納制を担う 5 人組制の年貢徴収機構、村役人層を中心にする村落自治制、小農民を株主とする農本主義に基づく封建社会＝幕府体制を特徴とする。したがって、世田谷村は中世の「下人経営」から近世への小農民経営へ移行するため、「下人経営」を解体する農民層分解を推進して独立自営農民層への形成を指向するが、イギリスのヨーマン独立農民層と相違する。この結果、日本の小農民層の形成はむしろ封建的地主層＝寄生的地主層の隷属下に置かれる。かくて、日本の小農民層は、イギリスのヨーマン、或いはジェントルマン^{フリースホルダー}の富農層、自由保有農民層の形成による 3 分割制農業資本主義への発達の道を閉ざされるのである。ここにイギリス型と異なる日本型の発達が近世の農民層分解によって生じるが、それは世田谷代官大場家の地主＝小作制へ帰結する農民層分解の中に窺える。「下人経営」の農民層分解は前述したように農業資本主義への発達の起点となるのみではなく、封建制の強靱化を強める寄生地主制＝小作制度へ帰結するのである。それゆえ、こうした中世の「下人経営」から寄生地主制へ移行する大場家のケースを次に検討する。このように寄生地主制へ向かう農民層分解への原因は次の 3 つの点に求められる。1 つは田租の「5 ツ割」による重税の影響である。2 つ目は「下人経営」を解体する農民層分解の不徹底さである。3 点目は既に述べたように、中世の吉良家の重臣の多くが世田谷二十ヶ村の村役人、つま

り名主、年寄の地位に付いて「下人経営」を根付かせ、近世の小農民＝本百姓層への農民層分解に阻絶的役割を果たしているのである。すなわち、世田谷二十カ村の代官大場市左衛門（吉重）と瀬田村名主長崎四郎右衛門は「下人経営」の富士山型ピラミッドの頂点に立つが、中位の「下人経営」（下人の数7人）を行っている上野毛村の名主田中源兵衛と年寄木村三右衛門は共通して後北条家に仕えた重臣であり、武将の流れを系統とする。田中家と木村家とが上野毛村の村内総反別の98%を占め、村内の土地を支配していた点について次のように位置づけられる。

「〔A型の農民＝有力農民〕

A型の農民は「筑後」（田中氏）・外記（木村氏）・助七郎（田中氏）の三名であるが、かれらはいずれも先述したように検地の際の案内人であり、中世以来の在地土豪の系譜を引く者である。吉良氏時代についての関係文献に散見する田中三河守・田中出羽・田中孫八などの名は、この田中氏の一族と推定される。なかでも筑後の家は代々上野毛村の名主をつとめ、のちに「一本紙名主」という一段高い格式を与えられている。

この三名の主作地および分附地の数を調べてみると……反別総計一三町三反一畝二五歩となつて、村内総反数の九八%を占め、耕地の筆数でいえば、総筆数二二三のうち二一一筆（九五%）で、この村のほとんど全ての土地を支配していたといっても過言ではない。

また、検地帳に記載された屋敷数から見ると、その合計一二軒はいずれも三名の有力百姓の所有ないしは分附屋敷であった。例えば筑後は、四軒の屋敷地をもち、そのうち一軒は主居屋敷で彼自身が住み、その他の三軒は彼の配下にある分附農民が分附屋敷として名請している。

このように、田畑といい、屋敷といい、いずれもこの三人の支配にあった。ここで、この三人の有力百姓の性格を知るために、彼らの名を冠する土地を、事例で示すと、次の三通りとなる。

①上田壱反老畝六歩 筑後分 主作

②下畑七畝拾四歩 筑後分 善五郎作

③下田貳拾六歩 弾左衛門分 筑 主作

①は当時、いまだ家父長的な複合家族制のもとに一族の労働力および譜代下人を使って手作り経営を行っていた「主作地」である。

②は中世以来の伝統を背景にして、地主の得方を徴収しうる土地で、これを村内の隷属農民に貸与して、耕作させている土地である。③の「筑」の字を冠する土地は、筑後との関係がいまだ解消していないことを示すもので、こうした記載様式はB型に属する経右衛門と弾左衛門の両者の場合だけ存在する。経右衛門は田中三反二畝の一筆だけ、弾左衛門は下田・下畑合せて二反三畝十三歩という零細な土地保有者である。しかし、両者はいずれも田を所有し、かつ有力百姓の分附農民でないということから、いわゆる隷属農民の自立したものとするよりは、有力農民から分出したもの、あるいは血縁関係にもとづき、分家を前提として、本家の土地の一部が名請されたものではないかと推定される。以上のことから本家の庇護関係を脱却しきっていないところから、いまだ「筑」の字が冠せられたものと解せられる。」

（「新修世田谷区史」上巻540～541頁）

以上引用したこの文章の中で重要な点は2つある。

第1は中世の「下人経営」の展開は徳川幕府の農村支配の基軸をなす近世の小農民層の支配と対立する点である。このため、徳川幕府は村落共同体の土地、屋敷そして農民を支配する中世の「下人経営」の解体を余儀なくされ、その解体の担い手として近世の小農民層の発達を農業

図表-3 世田谷二十カ村の「下人経営」者の分布

[illegible]

村 落	地位	「下人経営」者	家族数	下人			合計
				男	女	計	
10 岡本村 惣寄 237 (男136 女99 出家2) 鳥目 二百四拾五文	名主 年寄	萩野七郎右衛門 海老沢三郎兵衛 飯嶋傳左衛門 太兵衛 吉左衛門 権三郎	13 10 7 6 10 11	1 1 1 1 1 2		1 1 1 2 1 3	14 11 8 8 11 14
11 鎌田村 惣寄 140 (男73 女66 出家1) 鳥目 百四拾四文	名主 年寄	安藤平左衛門 藤 勘兵衛 猪兵衛 真言宗吉祥院	8 8 5 1	10 3 1 2	4 1 1 2	14 12 7 3	22 12 7 3
12 大蔵村 惣寄 562 (男296 女260 出家6) 鳥目 五百八拾二文	名主 年寄 年寄 年寄	石居市右衛門 安藤六右衛門 石居文右衛門 河野八郎右衛門 嶋金右衛門 石居三五兵衛 佐次兵衛 権次兵衛 六左衛門 佐太郎兵衛 次郎兵衛 長五兵衛 武右衛門 甚左衛門 次左衛門 甚五左衛門	7 4 9 11 2 10 7 3 8 4 8 7 5 11 12 9 3	9 1 5 2 1 1 1 1 2 1 1 1 2 1 2 1	5 1 4 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	14 6 18 16 3 11 8 4 9 11 10 13 15 6	21 6 18 16 3 11 8 4 9 11 10 13 15 6
13 横根村 惣寄 20		善兵衛	10	1		1	11
14 宇奈根村 惣寄 294 (男148 女143 出家3) 鳥目 三百六文	名主 年寄 年寄	荒居市郎兵衛 海老沢善十郎 香取弥次右衛門 傳右衛門	3 6 5 11	7 7 2 5	5 8 3 5	12 15 5 10 22	15 21 10 22
15 岩戸村 惣寄 249 (男136 女110 出家3) 鳥目 貳百五拾七文	名主 年寄	川合次左衛門 小川八郎左衛門 傳兵衛 長右衛門 甚左衛門 上野平兵衛 須田権兵衛	7 4 3 7 5 4 11	5 1 1 2 2 1 2	5 1 1 2 2 1 3	14 6 4 8 7 5 10	15 6 4 8 7 5 10
	名主 年寄	小川次郎兵衛 小川太左衛門 小川市郎左衛門 半兵衛 太郎兵衛	5 5 5 6 6	1 1 1 1 1	1 1 1 1 1	2 7 6 7 7	10 7 6 7 7
	17 和泉村 惣寄 162	八郎兵衛 多宝院	6 4	1 1		1 1	7 5
	18 八幡山村 惣寄 87 (男47 女40) 鳥目 八拾七文	嶋田権右衛門 植村市右衛門 惣左衛門 傳左衛門	4 7 4 6	5 2 2 1	5 2 1 1	10 11 3 2	14 11 7 8
19 太子堂村		彦右衛門	8	6	3	9	17
20 馬引沢村 惣寄 44 鳥目 四拾四銭		三左衛門	5	2		2	7

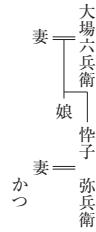
図表-4 村落毎「下人経営」の規模別分布

村名	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	合計
1 世田谷										1										1					1	1	3	2	1	1	2	3	8	9	15	48
2 弦 巻																																1	1	3	5	
3 新 町																																	1	2	7	10
4 用 賀																												1		2	4	1	3	5	16	
5 野良田																							1							1	1	1	6	3	14	
6 小 山																																1			2	
7 下野毛																													1			1	2	3	7	
8 上野毛																													2				1	2	5	
9 瀬 田	1																										1	1	2	3	1	2	7	8	25	
10 岡 本																																	1	2	4	7
11 鎌 田																						1										1	2		4	
12 大 蔵																						1							1	1	1	3	2	10	19	
13 横 根																																			1	1
14 宇奈根																					1		1		1						2	1	2	3	2	13
15 岩 根																											1						1	2	3	7
16 猪 方																															1			1	3	5
17 和 見																																			2	2
18 八幡山																										1							1	1		4
19 太子堂																											1									1
20 馬引沢																												1								1
合 計	1									1										1		3	1	1	1	3	4	4	6	5	12	16	22	46	70	196

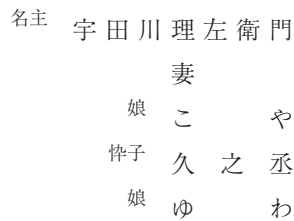
政策の中心課題とする点である。第2は徳川幕府の初期においても依然中世の「下人経営」が在地名主＝豪農の手作地＝直轄地を隷属下人によって耕作させ、中世的地主手作経営の継続されている点である。第3は農民層分解の2つ目の対立である。第1の農民層分解は在地地頭領主のイニシアチブによって中世的な農民層の分解を促進し、隷属農民＝下人を自立する小農民層に成長させ、小作人或いは自小作人の小農民として手作地＝直轄地を耕作させる寄生地主制の形成へ帰結する道である。第2の農民層分解は、本百姓＝名主の自立を育む村落共同体の自治体制、5人組による貢納体制そして小家族制＝単婚家族の自主独立性の確立による近世の小農民層の発達である。しかし、上野毛村の名主及び年寄を務める田中家と木村家は徳川幕府の初期段階で依然として中世の「下人経営」によって中世的地主手作経営を営んでいる。さらに、図表-1の中で、元禄8年（1695年）における上野家村名主田中源兵衛の家族構成は(1)3世帯複数大家族制（10人）を次のように展開する。

名主	田	中	源	兵	衛
			妻		
			母		
源兵衛忒子		源		八	
同娘		ま		ん	
同娘		か		や	
同娘		し	ゆ	ん	
同娘		し		け	
源兵衛弟		権	之	介	
同弟		与	兵	衛	

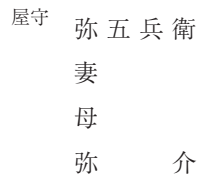
こうした名主、年寄等の複数世帯大家族制から夫婦中心の単婚家族＝小家族制への移行は近世の小農民層＝本百姓制の形成に不可欠な道である。というのも、前述したように、田中家は10人の3世帯複合大家族制に加えて、下人男女計7名で、「下人経営」の地主手作経営を行っている。家族制の形態について見てみると、「下人経営」を3世帯複合家族制で行うのを第1形態とするなら、第2形態は世田谷村の名主大場六兵衛家の親子2世代複合家族制で次の形態となる。



大場六兵衛家は2世帯複合家族5人の形態に下人男7人と女9人の16名を抱え、「下人経営」の地主手作経営を展開している。第3形態の単婚夫婦の小家族制へ脱皮したのは世田谷村名主宇田川理左衛門家であり、次の単婚小家族5人制を形成する。



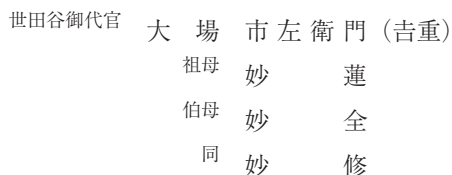
宇田川理左衛門は5人の単一婚小家族制を展開しながら、他方において下人（男7人・女2人）9人と譜代農民弥五兵衛家族を別屋敷に住ませる屋敷守制を次のように展開する。



世田谷村名主宇田川理左衛門は代官大場六兵衛と類似の「下人経営」と譜代屋敷守の計（家族5人＋下人9人＋屋守4人）18人による地主手作経営を大規模に展開し、近世的地主手作経営への過渡的移行をその単婚小家族制の中に見出すのである。

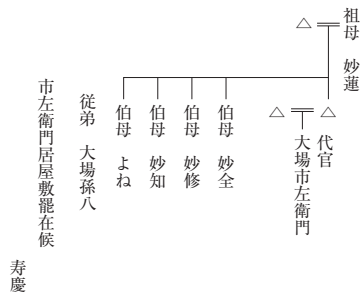
以上の家族制の3形態の中で特異な家族制と地主制手作経営を発展させているのが世田谷村二十ヵ村の代官大場市左衛門家である。その家族形態と屋敷守形態は次のような構成となっている。

(イ) 大場市左衛門の家族構成



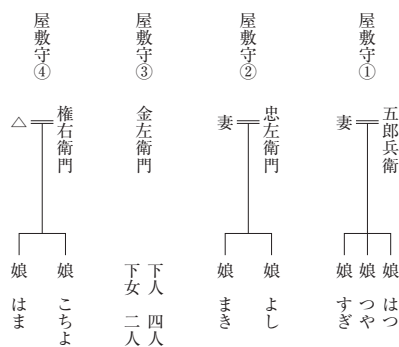
	同	妙	知
	同	よ	ね
先市左衛門従弟	大	場	孫
市左衛門居屋敷罷在候			八
			寿
			慶

この家族構成 8 人を図式化すると次のようになる。



(四) 代官大場家の屋敷守構成

代官大場家は家族屋敷の他に下記のように 4 つの世帯の農民家族の住む屋敷の 4 軒を屋敷守として有する。



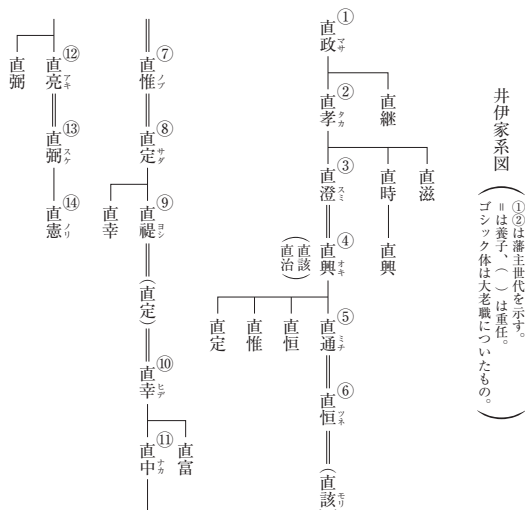
(「新修世田谷区史」上巻 720～722 頁)

世田谷村代官大場市左衛門は図表-7 に示される田畑 7 町歩余りを主に(1)家族労働と(2)男女下人 25 人、及び(3)譜代百姓の屋敷守家族 13 人+下人(男女) 6 人 合計 31 名によって地主手作経営を大規模に行うのである。したがって、世田谷村代官大場家はこうした地主手作経営を発達させ、世田谷二十ヶ村の頂点に立つ豪農としても活躍する。瀬田村の名主長崎四郎右衛門は家族 5 人と下人 35 名の計 40 人で地主手作経営(持高 71 石余り)を営み、代官大場市左衛門を上廻る大規模下人経営を行っている点で特異な存在である。

ここで世田谷代官大場家と彦根藩井伊家との関係について概観する。

井伊家は次の図表-5 井伊家系図に見るように初代藩主井伊直政^{マサ}から14代続く徳川譜代大名で有名なのが13代目の直弼^{すけ}であり、安政の大獄と桜田の門事件である。このため、吉田松陰は世田谷の松陰神社に祭られ、井伊直弼の墓も近くの豪徳寺に建立され、明治維新のクーデターへの原因ともなった。

図表-5 井伊家系図



(「新修世田谷区史上巻」455頁)

この図表-5での2代藩主直孝^{たか}は慶長18年大阪夏の陣、さらに冬の陣での豊臣秀頼軍の木村重成を破って大坂城攻撃の先手を引受け、ついに豊臣秀頼の自害に追い込む活躍をする。この功績によって徳川家康から5万石を加増されて井伊藩は20万石の大名へ出世した。次の3代将軍家光は寛永10年(1633)に関東に5万石の追加加増をする。

井伊家の先祖は平安時代一条天皇^{つか}に仕えた藤原共保を始祖とする。藤原共保は一条天皇から遠江守に任命され、先任地の引佐郡井伊谷に住んだことから井伊氏を名乗った。

前述したように井伊藩は関東に5万石を追加されたが、この加増の中に2,306石の世田谷村が含まれていたのである。

世田谷村は中世吉良氏の城下町世田谷宿として発達していた。中世吉良氏は足利幕府の滅亡後、後北条家に仕え、戦国時代に関東への進出を四天王に担わせた。その一角を成したのが武将大場家であり、世田谷城を拠点に支配を確立したが、豊臣秀吉の小田原城攻めで、世田谷で豪農として再出発することとなる。徳川家康の江戸城への進出は関東支配を直接支配から間接支配へ移行させる契機となった。関東を支配し、或いは知行地を与えられていた大名、旗本等は江戸城周辺に屋敷を与えられ、江戸に定住することを命じられた。代りに在地支配は代官、

図表-7 「大場市之丞家の地主手作経営」

反数合七町五反壹畝六歩	田 方	田畑上中下共
内 壹町壹反貳四歩	畑 方	
六町四反十二歩		
此わけ		
上田三反壹畝拾貳歩		但壹反ニ付壹石代
分米三石壹斗四升		
中田六反六畝廿四歩		但壹反ニ付八斗代
分米五石三斗四升四合		
下田壹反貳畝拾八歩		但壹反ニ付六斗代
分米七斗五升六合		
上畑壹町九反四歩		但壹反ニ付四斗五升代
分米八石五斗五升六合		
中畑壹町八反七畝廿壹歩		但壹反ニ付三斗代
分米五石六斗三升壹合		
下畑貳町五反七畝七歩		但壹反ニ付貳斗代
分米五石壹斗四升五合		
新屋敷五畝拾歩		但壹畝付四升五合代
分米貳斗四升三夕		
田石合 九石二斗四升		
畑石合 拾九石三斗三升貳合		

（「新修世田谷区史」上巻763頁）

名主、年寄等の村役人の直接支配するところとなり、村落共同体の直接責任による貢納組織、或いは村落共同体の自治行政を担う5人組制の形成、さらに、小農＝本百姓による共同耕作制を中心とする名主制の確立は、同時に徳川幕府体制を確立することとなる。

しかし、これまで指摘したように、世田谷村20ヶ村が中世吉良家の支配地となり、そこに「下人経営」による地主手作経営が富士山型ピラミッドとして根付いていた。その頂点に立つのが瀬田村の長崎家と世田谷村の代官大場家であることについては前述したところである。

井伊藩は在地支配を強める吉良家の旧家臣出身である在地豪農層を村方役人に任命して、世田谷20ヶ村の安定と秩序維持に務め、と同時に、検地によって農民支配の強化を計った。これら数日の検地は世田谷20ヶ村の村高と耕地増減を確定するのに大きな役割りを果し、と同時に、井伊藩の在地支配を確立することとなり、152頁の図表-6に要約される。

図表-6から窺えるように検地が繰り返される理由の一つは新田畑の所属を確定するためである。この係争は村内、村落相互間で激しく繰り返され、その決着を着けるために検地を行うのである。その代表例は鎌田村と大蔵村の争いである。

「村ノ広狭ハ田畑大蔵村ト入会タレバ接界モ分チガタケレバ、凡ハ東西ヘ二十丁、南北三十丁許、…(中略)一原野ハカリ、其処ハ秣場ニシテ此ノ方ハ大蔵村ト入会タリ」と。

代官、名主、年寄等はこの検地に立ち会い、土地紛争の解決に努力する。

他方、検地は新田地を小農民に賦与し、その土地の名主＝本百姓として確認するのに大きな役割を果し、農民層分解を推進することともなる。

図表-6 世田谷二十カ村の検地と耕地増減傾向

村名	年代	村高			野米	増加分										
		高	田	畑		上	畑	下	畑	屋敷	新屋敷	新田	新畑	下林	その他	
世田谷	正保 元禄 9	石 416.709	石 150.523	石 266.186	石 2.149											
	元文 5	〃	〃	〃	〃	畝 196.20	579.03 47.06 20.27	24.00	660.14	新ヤシキ 90.13	255.06	10356.08	1632.23			
	文化 5	〃	〃	〃	〃	198.27	626.09	16.26	663.01		284.24	10330.02	1612.02 20.27(芝地)			
	正保 元禄 9	133.411	69.072	64.339	0.892	48.14	1.01	64.01	269.19	8.27	11.01	24.54.14 ヤ成 (-3.06)	69.03			
弦巻	元文 5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	111.08	〃	〃	14.07	24.51.09	〃			
	文化 5	〃	〃	〃	〃	22.18	〃	134.16	〃	〃	〃	〃	〃			
	正保 元禄 9	171.154	85.954	85.200	8.914				504.02		79.28	38.23	7607.13			
	元文 5	〃	〃	〃	3.044	507.06 (507.06 1.17	13.03	94.06	〃	〃	12.14	〃	1963.19 (5626.22			
用賀	文化 5	〃	〃	〃	〃	2.22	10.11	72.07	〃	〃	102.06	49.28	7576.18			
	正保 元禄 9	78.067	31.824	46.243	1.564	29.16	3.10	27.17	301.24	30.26	57.25	3206.17				
	元文 5	〃	〃	〃	0.672	29.26 (3.05 191.14 13.06	〃	34.15	290.22	31.16	61.27	3.00 (2.08	3195.02			
	文化 5	〃	〃	〃	〃	〃	59.23	35.13	278.11	31.16	61.27	3184.14				
小山	正保 元禄 9	52.459	33.089	19.370	0.514		4.00		187.23		3.00	667.01	145.20			
	元文 5	〃	〃	〃	〃	86.01	〃	2.02	178.13		9.10 (3.00	〃	125.20			
	文化 5	〃	〃	〃	〃	76.02	9.03	9.29	176.13	11.10	3.00	〃	145.20			
	正保 元禄 9	211.571	154.213	97.358	1.282				238.26			45.18	1906.11	617.06	芝地石河原	
下野毛	元禄 9	169.428	51.391	119.096	〃	42.06	11.08	12.21	235.26	2.14	2.14	1795.27 (58.03	615.12	216.20 (35.00		
	元文 5	〃	〃	〃	1.285	44.08	21.27	9.10	239.05	3.05	29.19	2174.23	615.12	323.07		
	文化 5	〃	〃	〃	〃	45.20										
	正保	55.016	31.517	23.499	0.386											
上野毛	元禄 9	〃	31.552	23.500	〃	6.25	12.11	167.05		10.26	1.10 (2.24 0.16	2193.21	371.15			
	元文 5	〃	〃	〃	〃	〃	〃	166.15		11.26 (0.20	53.24	2191.21	〃			
	文化 5	〃	〃	〃	〃	7.15	12.15	165.15	0.20	12.26	4.20	〃	53.24	53.24	柳畑	
	文化 5	〃	〃	〃	〃								〃	〃		

瀬田	正保 元禄 9 元文 5 文化 5	354,660 〃 〃 〃	195,730 196,719 〃 〃	158,930 157,941 〃 〃	2,870 2,611 〃 〃	14,22 23,13 21,10	39,12 60,05 64,09	85,12 94,00 96,03	9,08 16,05 16,23	10,03 25,10 23,29	235,24 213,19 200,06	7,04 0,20 9,19	(26,23 189,09 (18,22 3729,09 33,00 50,24	3760,18 29,15 3729,09 3612,21	505,26 565,16 507,12	60,10芝地 30,28柳畑
	正保 元禄 9 元文 5 文化 5	191,670 〃 〃 〃	146,100 〃 〃 〃	45,57 〃 〃 〃	0,771 〃 〃 〃			192,13 167,15 2,09 110,12			617,03 〃 〃	21,21 27,07 7,01	1661,14 1656,04 〃	571,04 〃 〃	792±20	
	正保 元禄 9 元文 5 文化 5	86,910 〃 〃 〃	68,774 68,777 〃 〃	18,136 18,133 〃 〃	0,771 〃 〃 〃	0,06		89,23 89,22 138,07			5,25 1,26 1,26		4,00 6,00 〃	1387,28 1554,19 1546,25		7206下山原畑 (190,00 成 60,00
	大蔵	正保 元禄 9 元文 5 文化 5	263,974 〃 〃 〃	228,230 〃 〃 〃	35,744 〃 〃 〃	1,799 〃 〃 〃	12,26 29,26	2,18 〃	32,23 (69,11 10,16 193,13	5,18 〃	1,12	39,07 29,21 29,03	95,16 109,00 14,19 16,17	31,10 33,06 7,00 73,19	5454,14 5937,14 5110,02	226,04 〃
宇奈根	正保 元禄 9 元文 5 文化 5	畑54町65 七17 53石377 〃 〃	(見取場) 〃 〃 〃	畑54町65 七17 169石841 〃 〃	3俵235 1石285 〃 〃								34,19 354,18	1333,18 11,80,15 888,00		芝地1516,19
岩戸	正保 元禄 9 元文 5 文化 5	119,320 〃 〃 〃	66,993 〃 〃 〃	52,327 〃 〃 〃	1石542 〃 〃 〃		25,15	504,07 〃 56,05			359,01 356,23	10,23 17,14 17,11	24,13 36,27 40,21	1640,02 1633,14 1638,14	278,25 〃	下林278,25
猪方	正保 元禄 9 元文 5 文化 5	84,679 67,133 〃 〃	49,364 31,818 〃 〃	35,315 〃 〃 〃	0,250 〃 〃 〃			(46,04 1,24 7,25 75,09				4,20 (39,13 801,19 41,01 6,17 2,10 1042,18 896,10	453,27 124,00 462,27 374,27	124,00 〃	下林 142,20 124,00	
八幡山	正保 元禄 9 元文 5 文化 5	2,680 2,680 〃 〃		2,680 2,680 〃 〃							19,12 〃 〃	39,08 52,29 59,29		710,21 697,00 690,00		
新町	正保 元禄 9 元文 5 文化 5											211,19 235,20 235,20		町七 37,86,22 37,62,21 40,86,02		御作藁場跡 67,16 317,04

〔新修世田谷区史〕上巻690-691頁)

世田谷村二十ヵ村が飛び地として井伊藩領に編入された寛永10年（1633）に、藩主井伊直孝は、世田谷村二十ヵ村の代官に大場市之丞（盛長）を任命する。これまで繰り返し述べたように大場越後守信久は中世の後北条氏の重鎮吉良家の四天王として関東征服の先鋒役を務め、徳川幕府の初期において世田谷村に豪農として定住し、且つ在地領主としての地位を確立していた。世田谷村で豪農のもう一人の代表として活躍していたのが市之丞である。代官に任命された時の大場市之丞の持高は151頁の図表-7「大場市之丞家の持高28石5斗2合＝反数七町五反壹畝六歩の内訳」に要約される。

前に指摘したように、大場市之丞は家族、下人、そして譜代農民等31名を動員して地主手作経営としてこの7町歩余を耕やす在地豪農であると同時に世田谷二十ヵ村の井伊藩代官として在地支配の確立に努めるのである。尚、大場市之丞家は本家大場盛長の分家であるが、7代にわたって世田谷代官を世襲する。そして本家の大場家はその間、上町の名主と宿場の差配役を勤めている。大場市之丞家の7代目代官が年貢引負の罪で失脚すると、本家7代目大場六兵衛盛政が世田谷代官に就任し、明治維新まで代官の世襲化を進める。そして、大場本家である六兵衛盛政は元文4年（1739）に世田谷代官に就任し、代官家の基礎を確立するが、その強靱化を計ったのが寛政6年（1794）に代官となった大場弥十郎景運である。したがって、次の課題は代官大場弥十郎の豪農・金融政商・寄生地主としての三位一体の活躍を明らかにし、江戸幕府から明治維新への移行過程を明らかにすることである。